

三百七拾貳圓六拾三錢ノ科盜賊高主律ニ依リ坐賍ヲ以テ論シ懲役
 一年申付ル
 宗助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシテ明治十三年七月六日大審院
 ニ上告ノ要領左ノ如シ
 一安田清兵衛カ質出ノ物品ナリト申聞ルニ依リ買取リタル譯ニシ
 テ盜贓ヲ知テ故買セシヨアラズ當初警察署ニ差出シタル手續書ハ
 糺問官ノ嚴訊ニ難堪不實ノ口供ヲ爲セシナレト其取消ヲ大坂裁判
 所ニ申立置タリトシテ
 二宣告文ニ金高三百七拾貳圓六拾三錢トアレト買取タル金高ハ百
 八圓ナリトシテ

辨明

上告人ハ當初警察署ニ指出タル手續書ハ糺問官ノ嚴訊ニ難堪シテ
 不實ノ口供ヲナセシナレト云々申立ルトイヘト原裁判所ノ簿記ヲ
 徴スルニ右ノ手續書ハ上告人カ自カラ撰ム所ノ代書人秋山清高カ
 手書ニ掛リ殊ニ其之カ取消ヲ原裁判所ニ陳供シタレト其取消ハ畢
 竟罪跡ヲ韜晦セン爲メ前言ヲ食セシトスルニ止レルニヨリ原裁判
 所カ更ニ其反証ナキノミナラス安田清兵衛ニ於テ盜情ヲ明シ之ヲ
 賣渡シタル旨供白シタルヲ以前供(即警察署ニ指シ出)テ以テ信實
 ナリト認メタルハ相當ニシテ敢テ不當トナスヲ得ズ又宣告文中ニ
 金高三百七拾貳圓六拾三錢トアレト買取タル金高ハ百八圓ナリト
 申立ルモノフニヨリ原裁判所ノ簿記ニ徴スルニ上告人カ明治十三
 年六月二十三日ナシタル口供右買取シ衣類其外九拾五點此節御取
 調ノ上代積リ金三百七拾貳圓六拾三錢ニ相成候旨承知仕候トアリ
 サズレハ其贓物沽計高ノ三百七拾貳圓ニナルトハ當時已ニ承知シ

右ノ如クナルニ因リ明治十三年六月二十六日大坂裁判所ニ於テ御園宗助ニ云渡タル裁判ハ破毀スルキ理由ナキヲ以テ上告狀却下候事
第四百七十四號

○判文賭博三犯ノ件明治十三年六月二十五日上告
明治十三年八月二十八日判決

福島縣警城國東白川郡
下山本村平民

田村金四郎

明治十三年六月
三十二年四月

右金四郎カ明治十三年六月三日福島縣白川警察署ニ於テ吟味ヲ受テ陳述シタル口供左ノ如シ

一明治七年四月八日舊警前縣ニ於テ賭博ノ科ニ依リ杖八十二處

一明治十一年十一月十六日白河區裁判所ニ於テ賭博ノ科ニ依リ

杖八十二處セラレ

一黨類廿人 内十三人行方不知

一自分儀明治十三年五月二十四日警城國東白川郡臺宿村々社祭禮

ニ付參詣トシテ相越シ候處同村金澤利左衛門宅ニ於テ飲酒ノ上同

人不在中同郡高木村吉田梅藏發意ニ同シ同人并行方未タ知レサル

同郡下山本村菊地太郎右衛門并金澤利兵衛同郡八槻村武田長治郎

西河内村根本伊兵衛東河内村藤田新藏塙村鈴木幸助伊野上村鎌田

銀治外ニ生國姓名不知關東德ト綽號セル者其他姓名不知モノ十名

程ト金錢ヲ賭ケ博奕犯行中巡查方ニ撞見セラレ御召捕ノ際一旦該

場逃走候得トモ到底罪ノ遁シ難キヲ察シ先非ヲ悔ヒ明治十三年五月二十五日白河警察棚倉分署へ自首仕候事
 右ノ口供ニ依リ明治十三年六月九日福島裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ云渡シタリ
 其方儀囊ニ賭博ノ科ニ依リ兩度處刑ヲ受ケ尙又金澤利兵衛宅ニ於テ吉田梅藏外十八人申合セ財物ヲ賭ク博奕ヲナス科改定律例第二百六十九條ニ依リ懲役一年可申付ノ處捕吏ノ至ルニ際現場逃走シ後チ自首スルニ付開捕自首ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役百日換杖々一百申付ル

福島縣令山吉盛典ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月十五日司法省ヲ經由シ本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

抑該犯金四郎ノ犯罪タルヤ明治十三年五月廿四日金澤利兵衛宅ニ

於テ吉田梅藏外十八人申合財物ヲ賭シ賭博致シ居ル矣捕吏ノ至ルニ際シ現場逃走シ退テ自首スト雖モ囊ニ同罪ニ依リ自首シテ輕減セラレ、チ以テ改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯スモノハ減免スルヲ聽サス云々トアルニ照シ本犯金四郎ノ自首ハ減等スヘキモノニ非ス依テ改定律例第二百六十九條ニ候リ懲役一年ニ處スヘキモノト考量ス是レ福島裁判所ノ裁判違律トシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

金四郎カ賭博三犯ノ罪ハ捕吏ノ臨ムニ際シテ逃走シ后チ自首スト雖モ囊ニ再犯ヲ首シテ減等ヲ經タル者ナルカ故ニ改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯スモノハ減免スルヲ聽サストアルニ照依シ即チ金四郎カ賭博三犯罪ハ上告者上告ノ

如シ懲役一年ヲ科斷スヘキハ相當ナリトス然ルニ福島裁判所ノ裁
判玆ニ出テス減等ヲ施シ杖一百ニ處斷シタルハ違法ノ裁判ナリト
ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月九日福島裁判所ニ於テ田村金四
郎ニ云渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田村金四郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ賭博三犯ノ罪改定律例第二百六
十九條ニ依リ

懲役一年

第四百七十五號

○判文縣ノ條規ニ違犯セシ件
明治十三年四月一日上告
明治十三年八月三十日判決

高知縣土佐國土佐郡江

ノ口村住士族

伊東物部

明治十三年三月
滿三十一

同縣同國同郡同村住士

族

國澤定

明治十三年三月
十六年三月

同縣同國同郡同村中氷

通住士族

吉田雄熊

明治十三年三月
十六年九月

同縣同國同郡同村小川
淵住士族

後藤正直

明治十三年三月
二十年九月

同縣同國同郡同村砂介

森住平民

高木猛且

明治十三年三月
二十年生月不知

明治十三年三月廿九日高知裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ受マリ

伊東物部

國澤定

吉田雄熊

後藤正直

高木猛且

右物部外四名ハ明治十三年三月六日ノ夜同郡秦泉寺村小學校ニ於
テ多衆ヲ聚メ猥リニ官準ナラサル演說ノ會場ヲ開キ明治十一年本
縣甲第七十號及ヒ甲第二百八十號ノ布達ニ違犯セシ見込ヲ以テ
檢事ノ職權ヲ有スル五等警部田健治郎ヨリ求刑及ヒタリ因テ取糾
ス所物部等ニ於テハ豫テ國會開設ノ冀望アルニ付同志者宮崎富要
外五名ヲ招キ秦泉寺村小學校ニ於テ國會ノ開設ハ方今ノ急務ニシ
テ之レヲ願望スルハ國民ノ義務タル可キ理由ヲ論談說話シタルモ
ノニシテ全ク同志者ノ相談會ナルニ付其結局俱々坂府ニ至リ他ノ
同志ト結合ス可キノ約ヲナシ該場ヲ開散シタルノミニテ別ニ公衆
ニ對シ演說ヲナシタルコトナカリシ旨申立レテ四等巡查内田直滿カ

職務ヲ以テ其夜ノ實況ヲ筆記シタル書中ニ直滿カ演說ノ會場ニ入ルヤ門頭ニ有信社ト書セル提灯ヲ掲ケ扉ヲ開キ誰レ彼レトナク堂ニ集リ聽衆凡ソ六七拾名ニ及ヒタル頃演說者壹名坐ニ上リ當初遠慮ト擬題シ國會開設ハ人民タルモノ願望セズンハアル可カラスト演シ續テ國ノ盛衰云々ト云題ニテ古昔二神ノ賜ヒシ善良ナル權利ヲ伸張シテ一致同心國ノ盛舉ヲ圖ラスンハアル可カラスト說キ畢テ漸次立テ代リ講談數刻ニシテ止ムト是レ正ニ相當官吏カ見証スル所ナレハ物部等ニ於テ全ク演說會ト其性質ヲ異ニスル旨陳辨スルモ故カラコ學校ヲ借り受ケ門頭ニ掲クルニ有信社ト書セル提灯ヲ以テ門扉ヲ開キ廣告ハナサスト雖モ衆ヲ聚メ演說者ハ續々坐ニ上リ聽衆ニ向ヒ種々擬題ヲ設ケテ各己ノ意見ヲ吐露シタルモノナレハ豈同志者ノ相談會ト謂テ誰レカ之レヲ信用スルモノアラソ

乎因テ物部等カ陳辨ハ只口頭ニ止リ實際ニ適當セサレハ内田直滿カ職務ヲ以テナシタル見証ヲ破毀ス可キ効力ナキモノニ付官準ナク猥リニ衆ヲ聚メテ講談演說ヲナシ縣ノ條規ニ違犯セシ罪アルモノト判定シ明治十年一月廿九日太政官第十三號布告各府縣ヨリ布達スル所ノ條規ニ違犯スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五拾錢以内ノ罰金ヲ科ストアルニ依リ罰金各五拾錢ヲ科ス

伊東物部外四名ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年四月六日大審院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

自分共儀明治十三年三月六日夜土佐國土佐郡秦泉寺村小學校ニ於テ同志相談會ヲ開キタル處官准ヲ經由セサル演說會ト認定サレ明治十三年一月廿九日太政官第十三號布告ニ照ラシ別紙ノ通り其罪ヲ斷セラレタレハ決シテ承服スル能ハス則チ左ニ其次第ヲ開陳致

候

第一條

凡ソ彼ノ演説ト相談トハ自ツカラ其性質ヲ異ニスルモノニシテ只
 タ一人一箇ノ思想ヲ吐露スルニ止マルモノヲ演説ト云ヒ相互ニ是
 非討論シテ結局其承諾ヲ要スルモノハ即相談ト稱ス可シ其相談會
 チ開クニ當リ必ス官准ヲ經由スヘシトノ法律ハ自分共ノ從來承知
 セカルトコロニシテ既ニ高知縣甲第七十號ノ布達即チ本年太政
 官第廿九號ヲ以テ近來地方ニ於テ國事政体ヲ談論スルノ目的ヲ以
 テ何某社ト稱シ或ハ演説會ヲ開キ多衆聚合スル者有之趣相聞ヘ右
 ハ警察官ニ於テ視察ヲ加ヘ万一其舉動民心ヲ煽動シ國安ヲ妨害ス
 ルニ涉リ候者ト看認候節ハ令禁止其事情ヲ具エ内務卿ヘ可届出旨
 公達有之候ニ付從來及ヒ將來演説會等ヲ開設候者ハ會席ノ位置該

會ノ主意及ヒ開會創設ノ年月日等詳細記載シ其會主ヨリ最寄警察
 署ヘ可届出此旨布達候事但書ハト有之ニ據リテモ亦演説會ノ外自
 分共カ開キタル相談會ノ如キ固ヨリ其届ヲ爲スニ及ハサル義ハ敢
 テ論辨ヲ賈ヤサルモ判然タル譯ニシテ決シテ別紙ノ如キ不法ノ
 所斷ヲ蒙ルヘキ理由無之候

第二條

前陳ノ如ク演説會ノ外其届出ヲ爲スニ及ハサルヲ以テ自分共ハ勿
 論其届出ヲ爲サス同志者則宮崎富要外五名ヲ招待シ國會開設願望
 ノ義ヲ相談致シタルニ五等警部田健次郎ハ四等巡查内田直滿カ不
 以實ノ告發ヲ偏信シ法律ニ背戾セル見込ヲ以テ求刑ニ及ヒタリ自
 分共ハ裁判所ニ於テ演説ト相談ト其性質ヲ異ニスル所以并ニ當夜
 ノ景况等具サニ陳辨スト雖モ如何ニセシ自分共カ証言セシ宮崎富

要外五名、絶テ尋問無之ノミナラス其告發者タル内田直満ト一回ノ對審ヲモ命セラレスシテ直チニ別紙ノ通リ不法ノ所斷ヲ蒙リタリ該裁判ニ曰ク四等巡查内田直満カ職務ヲ以テ其夜ノ實況ヲ筆記シタル書中ニ直満カ演說ノ會場ニ入ルヤ門頭ニ有信社ト書セル提灯ヲ掲ケ扉ヲ開キ誰レ彼レトナク堂ニ集リ聽衆凡ソ六七拾ニ及ヒタル頃演說者一名坐ニ上リ當初遠慮ト擬題シ國會開設ハ人民タルモノ願望セズンハアル可カラスト演シ續テ國ノ盛衰云々ト云題ニテ古昔二神ノ賜ヒシ善良ナル權利ヲ伸張シテ一致同心國ノ盛學ヲ圖ラスンハアル可カラスト說キ畢テ漸次立テ代リ講談數刻ニシテ止ムト是レ正ニ相當官吏カ見証スル所ナレハ物部等ニ於テ全ク演說會ト其性質ヲ異ニスル旨陳辨スルモ故テニ學校ヲ借り受ケ門頭ニ掲クルニ有信社ト書セル提灯ヲ以テシ門扉ヲ開キ廣告ハナサズ

トモ衆ヲ聚メ演說者ハ續々坐ニ上リ聽衆ニ向ヒ種々擬題ヲ設ケテ各己ノ意見ヲ吐露シタルモノナレハ豈ニ同志者ノ相談會ト謂テ誰レカ之レヲ信用スルモノアランヤ因テ物部等カ陳辨ハ只タ口頭ニ止マリ實際ニ適當セサレハ内田直満カ職務ヲ以テナシタル見証ヲ破毀スヘキ効力ナキ云々ト是レ自分共カ最モ承服スル能ハサル所ナリ何ヲ以テ承服スル能ハスト云フ乎曰ク内田直満ハ高知縣四等巡查ニシテ其職務必ス行政警察ト司法警察ヲ兼任セルモノナラン果シテ之ヲ兼任スルモノトセハ當時自分共カ未ダ其談話ヲ初メサル以前ニ於テ之レヲ戒シメ之レヲ諭サ、ルヘカラス是レ則チ罪犯ヲ豫防スヘキ行政警察ノ本分タルハ勿論若シ又業已ニ其罪犯タルヲ看認ムルキハ直チニ自分共ノ談話ヲ禁止シ而ル後之レヲ告發スヘシ是レ亦司法警察ノ本分ナリト雖モ内田直満ハ只タ其夜ノ實況

ナ筆記シタルマテニテ一語ノ不審ヲ爲サス一言ノ禁止ヲ命セサル
 ノミナラス三月六日ノ夜ヨリ同十日迄警察署ノ喚問ヲ受ケサリシ
 ハ相當官吏タル内田直満ニ於テモ亦自分共カ開キタルハ所謂相談
 會ニシテ演說會ナラストシ隨テ未タ其罪犯ヲサルヲ確認セルモ
 ノト斷言セサルヲ得ズ且ツヤ直満カ筆記セル書面ノ如キモ仮令ヒ
 其職務ヲ以テナシタルコトモセヨ豈ニ誤謬ノ所見ナキヲ保スヘケン
 ヤ既ニ其遠慮云々國ノ盛衰云々古昔ニ神ノ賜ヒシ善良ナル權利云
 々ノ題等ニ至リテハ自分共更ニ之レヲ設ケタル覺ヘ無之固ヨリ國
 會開設願望ノ義ヲ同志ト相談致シタルモノナレハ甲ノ語ヲ乙ニ讓
 リ乙ノ言ヲ丙ノ補フ迄ニシテ別ニ議題ヲ設ケサリキ然ルヲ遠慮云
 々等其議題ヲ設ケタリトハ即チ内田直満カ誤謬ノ一ナリトス云々
 若果シテ其見証スル事柄ノ相當官吏カ職務上ヨリ出テタルキハ一

々之ヲ信用スルモノトセハ彼ノ斷罪依証ノ法律モ只一片ノ故紙タ
 ルニ過キス而シテ決シテ犯罪者ノ口供ヲ要スルニ及ハサルノ理由
 ナラシ是レ自分共カ別紙ノ如キ不法ナル所斷ニ承服スル能ハサル
 所以ニ有之候

第三條

故ラニ學校ヲ借受ケ門頭ニ掲クルニ有信社ト書セル提灯ヲ以テシ
 門扉ヲ開キ(中略)同志者ノ相談會ト謂テ誰カ之ヲ信用スルモノアラ
 ノ云々ト有之凡斷罪ノ法タル敢テ他ノ信不信ヲ要スヘキニアラ
 ス必スヤ眞理ノアル所法律ノ存スル所ニ從フテ處斷スル是則長判
 官ト謂フヘシ而シテ今如斯忍クハ律法アルヲ知ルモノ、宜シク爲
 スヘキ所ニアラス况ンヤ學校ヲ借受ルモ寺院ヲ借受ルモ皆自分共
 カ權利内ノ事ニシテ法律ニ觸サルハ勿論政府ノ過慮スヘキ義ニ無

之且掲クルニ提灯ヲ以テシ門扉ヲ開クモ亦自分共カ權利内ニシテ招待セル客ニ對タル禮ナルニ於テチヤ猥リニ此事柄ヲ推テ以テ相談會ヲ目シ演說會ナリト附會シ自分共カ宮崎富要外五名ニ對シ相談ヲ爲スノ風ヲ聞キ來テ其席ニ列セシ者ヲ拒絕セカトシテ官准ヲ經由セサル演說トハ認定スヘカラサル也故ニ別紙ノ如キ不法ノ所斷ニ承服スル能ハス候

上告ノ主點

一上告人等カ明治十三年三月六日ノ夜秦泉寺村小學校ヲ借受ケ同志者相集リ宮崎富要外五名ヲ招待シ國會開設願望ヲ相談會ヲ開キタルモノニテ又此談會アルト聞來テ其席ニ列セシ輩ヲ拒絕セカリシ迎官准ヲ得サルノ演說會ト認定サレシハ不法ナリトノ事

辨明

相談會話トハ豫テ其人ヲ定メ團樂以テ交話互說スルノ謂ヒナリトス今原裁判所ノ簿記ヲ涉獵スルニ同夥人鍋島直實横山友義カ明治十三年四月廿二日高知裁判所ニ於テ爲セシ口供ニ該夜相談會ヲナシタルハ互ニ膝ヲ突キ合ヒテ話ヲシタルニアラス別ニ一席ヲ設ケ相談ヲナサント欲スルモノハ其席ニ至リ起立シテ自己ノ意見ヲ申述シ答ウルモノモ亦其席ニ至リ立テ答ヘタル義ニ有之又上告狀中ニモ其故ヲニ學校ヲ借り門頭ニ社名ヲ記シタル提灯ヲ掲ケ社外人ノ來聽ヲ容シタルモノニアラスヤ然ラハ則明治十一年高知縣甲第百七十號布達中ニ本年太政官第廿九號ヲ以テ云々國事政体ヲ談論スル目的ヲ以テ何某社ト稱シ或ハ演舌會ヲ開キ多衆聚谷スル者云々演說會等ヲ開設候者云々トマルニ適當スル所爲ナリトス故

○原裁判所ニ於テ上告人等カ當時ノ所爲ハ其意匠辨解ノ如キハ該
布達中ノ精神ニ抵觸スルモノニ付之カ現場ニ臨ミシ相當官吏カ見
証ヲ是認シ破毀スヘキ効力ナシト裁判セシハ相當ニシテ敢テ不法
トナスヲ得ス

判決

前條之通ナルヲ以テ明治十三年三月廿九日高知裁判所ニ於テ云渡シ
タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スル者也
第四百七十六號

○判文縣ノ條規ニ違犯セシ件 明治十三年五月一日上告
明治十三年八月三十日判決

高知縣土佐國土佐郡江

口村住士族

鍋島直實

明治十三年四月
二十二年五月

高知縣土佐國土佐郡大

川筋住士族

横山友義

明治十三年四月
三十年二月

明治十三年四月二十三日高知裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方共儀伊東物部等ト明治十三年三月六日ノ夜同郡秦泉寺村小學
校ヲ借り受ケ官許ヲ經スシテ演說會ヲナシ明治十一年本縣ノ布達
セル條規ニ違犯セシ見込ヲ以テ求刑相成リ取糺ス所其方等ハ豫テ
國會開設ノ願望アリテ該夜同志者ト共々宮崎富要外五名ヲ招キ秦
泉寺村小學校ニ於テ國會ノ開設ハ方今ノ急務タルヲ論談說話シ
タルモノニシテ全ク演說會ト其質ヲ異ニシ相談ヲナサント欲スル

者ハ別ニ設ケタル席ニ至リ起立シテ說話ヲナスモ集會セル傍聽人等トハ全ク關係無之且門頭ノ提灯ハ富要等ノ爲メニ掲ケシモノニテ結局他ノ同志者ト示談ヲナサントテ約シ該場ヲ開散シタルノミニテ別ニ公衆ニ對シ演說ヲナシタルコトナカリシ旨申立レヒ四等巡查内田直滿カ職務ヲ以テ其夜ノ實況ヲ申述シタル書中ニ直滿カ演說ノ會場ニ入ルヤ門頭ニ有信社ト書セル提灯ヲ掲ケ扉ヲ開キ誰レ彼レトナク堂ニ集リ聽衆凡ソ六七拾名ニ及ヒタル頃演說者壹名坐コ上リ當初遠慮ト擬題シ國會開設ハ人民タルモノ願望セズンハアル可カラスト演シ續テ國ノ盛衰云々ト云題ニ古昔二神ノ賜ヒシ善長ナル權利ヲ伸張シテ一致同心國ノ盛舉ヲ圖ラスンハ有ルヘカラスト說キ畢テ漸次立チ代リ講談數刻ニシテ止ムト是レ正ニ相當官吏カ見証スル所ナレハ其方等ニ於テ全ク演說會ト其性質ヲ異ニシ

傍聽スル多衆ノ者ニハ關係ナキ旨陳辯スレモ只口頭ニ止リ實際ト相違スレハ内田直滿カ見証ヲ破毀ス可キ効力ナキモノニ付官許ヲ得スシテ猥リニ衆ヲ聚メテ講談演說ヲナシ縣ノ條規ニ違犯セシ罪アルモノト判定シ明治十年一月二十九日太政官第十三號布告各府縣ヨリ布達スル所ノ條規ニ違犯スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五拾錢以內ノ罰金ヲ科ストアルニ依リ罰金各五拾錢ヲ科ス

鍋島直實横山友義ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十三年五月一日大審院ニ上告ノ要領左ノ如シ

第一條

自分等ノ相談會ヲ開キシ所以ノ者ハ當時大坂愛國社ニ於テ國會開設ヲ政府ニ願望スルカ爲メ大ニ天下同慨ノ士ヲ募ルト聞キ自分等ノ熱望スル所亦此點ニアルヲ以テ夙ニ此ニ從事シ宮崎富要井上榮

彦近森時樹長崎隆造森本幾三郎森和太郎等素ト面識アルヲ以此夜該小學校ニ招待シ共ニ俱ニ將來ノ事ヲ相談セシ折柄如何ナル故ヲ知ラズ校中人ノ群集スルヲ見受クソレモ自分等トハ相關涉セス且該校ハ借受タルヲ以テ自分等之ヲ拒絕スルノ權ナク唯右六名而已ト談判ヲ畢ヘ退散セシ處後數日ニシテ警察署ノ喚問ヲ蒙リ尋テ裁判所ノ訊問ヲ受レモ自分等ハ固ヨリ彼公衆ニ向テハ一言半辭モ演說セズ且六名ノ内三名ハ既ニ自分等ノ發議ニ同意シ其席ニ出テ、之ヲ表スル等純然タル相談會ニシテ太政官公布ニ所謂演說會ノ官准ヲ經サル者ニ無之旨趣ヲ以テ縷々辨解ヲ爲スト雖モ遂ニ自分等ノ主義ヲ徹底スル能ハス願フニ該裁判ノ旨趣トスル所ハ別ニ証左アツテ然ルコアラズ惟一ニ内田直滿カ筆記ヲ引テ見証ト爲スモノ、如ク而シテ直滿ハ警察吏員ノ一部分ニシテ苟モ其職務ヲ以テ出張セ

シモノトセハ該夜ノ景況果シテ疑フヘキアラハ行政司法執レノ點ヨリ見ルモ宜シク直ニ處分アルヘキニ未タ一言ノ說諭ヲモ受ケス又斷然停止ノ命令モナク況ンヤ數日ヲ經過スルニ及ンテ始テ喚問サル、ニ於テチヤ是蓋シ直滿ト雖モ演說會ナラザルト見認セシニ依ルナルヘシ果シテ然ラハ判官カ彼ノ見証スル所ヲ信シ自分等縷々ノ陳述ヲ排却シ法律ト條理トニ背戾セル裁判ハ未タ甘受スル能ハズ

第二條

直滿ハ如何ナル見識ヲ有スル乎猥リニ我々人民カ權利内ヲ以テセシ門頭ニ社名アル提灯ヲ掲クルイ門扉ヲ開キタルイ特ニ發言ノ坐ヲ設ケタルイ等二三些末事ヲ舉テ告發ノ方便トナシ其提灯ヲ掲シハ富要等ニ對スルノ禮門扉ヲ開シハ主客ノ往來ヲ便スルカ爲メ發

言ノ坐ヲ設シハ議事場適宜ノ体裁ナルヲ知ラス殊ニ堂ニ集ル聽衆凡六七十名ト謂フカ如キハ冤枉ノ太甚シキモノコノ彼我ノ相關涉セサルハ前條開申シ來ル通ナルヲ敢テ關係ノ有無ヲモ問ハス相談場ニ自佗多少ノ群集人アレハトテ速了ニ聽衆ト指言ス譬ハ人ノ路傍ニ立談スルニ際ニ行客ノ足ヲ止ルアラハ其人ヲ指テ演說者ト爲シ足ヲ止ムル者ヲ呼テ聽衆ト爲スカ如シ是亦人事ヲ皮想ノ臆斷ニ失スルモノト謂フヘシ或ハ擬題ヲ設ケ遠慮ト謂ヒ國ノ盛衰ト謂フカ如キハ實際決シテ無キ處恐クハ彼ノ誤聽ナラン如斯事理曖昧ナル告發ヲ採納シ純然タル自分等ヲ以テ犯罪者ト爲ス是レ自分等ノ該裁判ニ畏服スル能ハサル所以ノ根原ナリ

第三條

直滿カ見証スル處其信スヘカラサル斯ク如ク自分等カ根元ノ旨趣

ヲ察セズ枝葉ヲ些末事ヲ把テ告發シ精神ト爲ス而シテ自分等ノ法庭ニ喚問サルハヤ未タ一回ノ對審ニモ及ハス早既ニ自分等カ陳辨スル所ハ彼カ見証ヲ破毀スヘキ効力ナキモノト裁定サルニ至レリ而モ直滿カ見証モ亦前條ノ不都合ナキ能ハス實際ニ相違スル所モ尠カラス判官ヲ信認シテ自分等ヲ責ムルニ縣ノ條規ニ違犯スルヲ以テスルハ果シテ論罪依証ノ旨趣ニ協フモノニアラス蓋彼相當官吏タルカ爲メ過誤ナキモノニシテ其聽ク所皆眞其告クル所皆實ナリト謂フ乎咄々怪事ト謂ハサルヲ得ズ請フ試ミニ思人間ノ誤失多キハ嗚々フ辨ヲ費スヲ待タス官吏ト雖亦免ルヲ能ハス是當初ノ律令ニ視ルモ今日ノ官吏懲戒例ニ徴スルモ亦其無ヲ保セサルヲ知ルヘシ云々況ンヤ一地方ノ四等巡查ニ於テヤ判官ノ糺彈此點ニ達セス今日ノ罪科ヲ宣告サルハニ至ル是レ則裁斷シ明了ヲ欠クモ

第四條

ノニシテ自分等ノ不滿ヲ懷カサルヲ得サル所以ナリ
 演說會ト性質ヲ異ニスルト傍聽人ト關係セサルトノ事ニ就キ自分
 等カ陳辨スル所ハ實際ニ相違ストノ宣告ヲ蒙レリ判官ハ何ヲ以テ
 自分等カ彼等ト關係アルヲ知ルヤ苟モ實際ニ相違スト裁斷セハ關
 係アルヲ明言スルモノニシテ必ス証佐ノアルナルヘシ而モ未タ其
 何ノ點ニ存スルヤヲ明示セス姑ク直滿カ筆記ニ憑テ考ルモ唯該夜
 景況ノ一斑ヲ明コスルマテニテ未タ以テ證據視スルコ足ラス而ル
 チ自分等カ申述スル所ハ口頭ニ止リ彼カ見証ヲ破毀スルノ効力ナ
 キモノトセハ則判官カ實際關係アルモノコノ演說會ト性質ヲ同フ
 スルト謂フモ亦理義ニ適シタル裁判ニシテ自分等チマテ感服セシ
 ムルノ威力ナキモノト謂フモ過當ナラサルト信ス右ノ通ノ事實ニ

付仍御紀彈入上該不當ヲ裁判破毀相成度此段奉願候也
 一宮崎富要等該小學校ヲ招待シ俱ニ將來ノコトヲ談セシ折柄校中
 間人ヲ群集スルヲ見受ケレモ相關涉セヌ且該校ニ借受ケルメ故チ
 以テ之ヲ拒絕スルノ權ナシトノ事
 二該夜門頭ニ社名アル提燈ヲ掲ケタリシハ富要等ニ對シ是禮又門
 扉ヲ開キシハ主客ノ往來ヲ便スルカ爲メ又特ニ發言シ坐ヲ設シ
 且該議事適宜シ体裁ニシテ我々カ權内ナリトシテハ
 又相談場ニ自佗多少ノ群集人アレハ迎其人等カ自分等ノ相談ニ
 關係ノ有無ヲ問ハス聽衆ト指言セラレシハ臆斷ナリトノコト
 三自分等カ根元ノ旨趣ヲ察セス枝葉ノ些末事ヲ把テ告發ノ精神ト
 爲シタリシモ其巡查直滿カ見証タルヤ不都合ナキ能ハス實際ニ

相違スル所鮮カラス然ルニ彼ノ相當官吏ヲ見証過誤ナキモノト
ナシ裁判ノ材料トサレシハ不法トノ事トシテ
辨明

第一條

上告要領第一條ニ宮崎富要等ト相談ノ折柄校中人ノ群集スルヲ見
受タレト相関涉セズ且借校ノ故ヲ以テ之ヲ拒絕スルノ權ナシト申
立ルトイヘト原裁判所ノ簿記ヲ涉獵スルニ明治十三年四月十六日
高知縣警察署ニ於テナシタル口供(節畧)相談會相催シ居タル際之ヲ
聞ク爲メニ來合セシモノ數十名アリタル云々傍聽人ノ偶會セシモ
ノト自分等ノ相談會ト相関涉セサル義ニテ私共ニ於テハ聞ク爲メ
ニ來合セシ者ニ候哉惣テ承知不仕トアルニヨレハ當時上告人等ニ
於テ其傍聽人ハ校中人ナリシヤ否ハ自カラ認知セザリシト明ラカ

ナリトス已ニ其校中人タルヲ知ラスニ今其借校ノ故ヲ以テ拒絕
スルハ權ナシト申立ハ不立立申立ナリト云々
第二條

上告要領第二條ニ該門頭ニ社名アル提灯ヲ掲ケタルハ云々我々
權内ナリト申立ルトイヘト上告人カ明治十三年四月廿二日原裁判
所於テ爲セシ口供ニ該相談會ヲナシタルハ五ニ膝ヲ突キ合セテ話
チシタルニアラス別ニ一席ヲ設ケ相談ヲナサント欲スルモノハ其
席ニ至リ起立シテ自己ノ意見ヲ申述シ答フル者モ亦其席ニ至リ立
テ答ヘタル義ニ有之トアルヲ以テ觀レハ明治十一年本縣甲第百七
十號布達中ニ本年太政官第廿九號ヲ以云々國事政体ヲ談論スルノ
目的ヲ以テ何某社ト稱シ或ハ演說會ヲ開キ多衆聚合スル者云々演
說會等ヲ開設候者ハ云々トアルニ適當ナル所爲ナリトス

又相談場ニ自他多少ノ群集人アレハ逆其人等カ相談ニ關係ノ有無ヲ問ハズ聴衆ト指言スルハ云々ト申立ルトイヘ其傍聽人等カ上告人等ノ相談ニ關係ノ無キヲ以テ演說會ニアラスト云フヘカラス何トナレハ其傍聽人等カ上告人ノ相談ニ關係アリヲ以テ相談會中ノ人員トモイフヘケレ其傍聽人カ之ニ關係ナクシテ上告人等カ交々其席ニ出テ立談スルヲ聴聞セシムル如キハ却テ演說會ヲナシタルモノト認メサルヘカヲサレハナレ

第三條 上告人ハ其訴ノ事實ニ關シテ二日以内に上告要領第三條ニ自分等カ根元ノ旨趣ヲ察シテ枝葉ノ些末事ヲ把テ告發ノ精神トナシタリシモ云々申立ルトイヘトモソレ法律ハ現狀ヲ科罰スルモノナリ故ニ原裁判所カ第三條第一項辨明ノ如ク其現狀ノ觸法スル所ニ就テ科シタルモノナクテ

第四條

上告狀中此他種々ノ申立ヌレト畢竟枝葉ニ屬シ且前條ノ辨明ニ於テ自カラ了解スヘキモノナルヲ以テ故ラニ辨明ヲ與ヘス

前條ノ通ナルヲ以テ明治十三年四月廿三日高知裁判所ニ於テ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スル者也

第四百七十七號

○判文詐欺取財ノ件 明治十三年六月廿六日上告 明治十三年八月三十日判決

東京府日本橋區住吉町 石田源次郎同 加藤萬五郎事

山崎萬五郎

明治十三年六月廿七日

明治十三年六月十四日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡サレタリ
 其方儀貸金ノ抵當ニ預リ置ク旨ニ詐リ中村鐘三郎外廿一人所有ノ
 金祿公債書ヲ欺キ取ル賍金千八百七拾貳圓余ノ科詐欺取財條ニ依
 リ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ノ處自首スト雖モ右賍金ノ内百五拾
 貳圓九拾六錢ノ外還償スル能ハサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役
 五年申付ル

但右犯罪ノ贖ヲ以テ責付中山崎「カノ」ヲ養子ト成リタル旨申立ル
 ト雖モ山崎「カノ」ノ陳述ニ依レハ其承諾ヲ受ケスシテ擅ニ同人ノ
 實印ヲ押用シ其筋へ養子届ヲ爲シタルニテ全ク詐欺ニ出タルモ
 上ノ下判定スルモ其罪輕キ以テ論セズ
 萬五郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月廿六日大審

院ニ上告スル要領左ノ如シ

第一萬五郎「カノ」ノ養子トナリタルハ事實ニシテ故造ニアラ
 スト

第二養子届書へ山崎「カノ」ノ實印ヲ押用シタルハ「カノ」ト其養子相續
 ノ規約相整タルヨリ同人長女「ミヨ」ノ舊夫原田金次郎立會同人宅
 ニテ「カノ」カ許諾ヲ得タル上同人面前ニ於テ押印セシト

第三宣告書ニ山崎ノ姓ヲ掲載アル上ハ同家所在ノ地名即チ北島町
 二丁目六番地ト肩書セラレ然ルヘシト

第四山崎「カノ」ニ於テ代人ヲ以テ萬五郎御下ノ歎願書差出シタルニ
 「カノ」ヲ召喚モナク却テ拘留セラレタルノミナラス同人及ヒ引合

人ノ口供ハ事實相違ナリトシ
 辨明

萬五郎ニ於テ山崎カノノ養子トナリタルハ事實ニシテ又其養子屈書ヘ「カノ」ノ實印ヲ押用シタルハ原田金次郎立會ノ上「カノ」カ許諾ヲ得タルト云々申立ルト雖モ萬五郎カ東京裁判所檢事ノ問ニ答ヘ「梅印」シタル口供及ヒ「カノ」カ同様ノ口供并「カノ」カ婚ナル原田金次郎カ始末書ノ要領左リ如シ

明治十三年五月六日

問ニ山崎カノノ養子トナル節ハ誰カ媒妁ヲナセシヤ
答ニ別ニ媒妁ハ頼マヌ自分ト「カノ」トノ直談ニテ取極メタリ

問ニ然ラハ養子ノ話ハ何レノ方ヨリ之ヲ出セシヤ
答ニ自分ヨリ出セリ

問ニ「カノ」ニ於テ異議ナク承諾セシヤ
答ニ其實「カノ」ハ老耄ナレハ其迄ノヲハ申聞ケス只向來自分カ世話

致シ安樂ニ過シ遣ス旨申聞ケタル迄ナリ

問ニ區役所ヘノ屈等ヘ「カノ」カ實印押捺有之右ハ誰レカ押捺セシヤ
答ニ自分ニ於テ押捺セリ

問ニ「カノ」ヨリ受取テ押捺セシヤ
答ニ「カノ」ハ固ヨリ老耄ノトニテ實印ノ所在モ不心得程ナレハ別段

「カノ」ヘハ申聞ケス「カノ」カ女婿ナル山田某ナル者方々預リ有之ト
ト存シ同人方ニテ承リタル處預リ有之趣ニ付自分ニ受取リ區役所ヘノ屈等「カノ」カ實印入用ノ節ハ都テ自分ニ於テ調印致シ爲相濟タリ尤右等ノ「カノ」ヘ申聞カスルモ無益ニ付申聞ケス右實印ハ其儘宅ニ置キタルト心得タリ

山崎カノノ口供 明治十三年五月三日

問ニ「カノ」汝ハ過日萬五郎ヲ養子ニナセシト尋テ受タル節ハ萬五

郎ハ汝ヲ世話致シ呉ル、答ノコトハ取極タレハ養子ナルヤ又ハ他人ニテ只世話致シ呉ル、ノミナルヤハ心得不申旨答ヘタリ右ハ正シク然ルカ

答 御尋ノ通相違ナシ

問 汝カ今ノ住居へ引移ル節淺草區役所へ出シタル送籍願又ハ日本橋區へ出セシ入籍願并萬五郎カ相續届ニ汝カ實印押捺有之處右ハ汝ニ於テ正シク調印致セシヤ

答 自分ハ右等ノモノへ調印致セシ覺ナシ

問 然ラハ右願書又ハ届書へ調印スルコト誰カへ爲任タル覺ハナキヤ

答 右モ亦覺ナシ

問 然ラハ實印ハ如何致シ置タルヤ

答 實印ハ馬道町ニ住居ノ節ハ如何致セシヤ覺ナシ淺草ヨリ今ノ住居へ移ル節ハ自分老耄ノコト故紛失等アリテハ不宜ト存シ店請喜三郎方へ預ケタリ

問 然ラハ區役所等へノ届杯モ店請印セシモノヤ

答 店請コトモ誰コトモ若シ調印致ス節ハ必ス自分へ斷ル答ナレハ其様ノ話ハ曾テ店請又ハ其他ノモノヨリ承ハラスト覺フ

原田金次郎始末書ノ要領 明治十三年四月廿八日

山崎カノハ私妻、ミヨノ實母ニ相違無之又カノ店請人喜三郎妻キ、シハ、ミヨ儀先年屋敷奉公中召使タル手續ニ依リ喜三郎於テカノヲ世話致シタルコトナリ將タカノノ養子萬五郎ナルモノハ更ニ不存又是迄面會モ不致且同人儀ハ兼テカノノ親族杯ト申事モ一向不相存候事

右三名カ口供〔萬五郎カ口供ノ末項ニ山田某ト〕タルヤ各其中供スル處ノ旨趣符合セシノミナラスカノ并石田源次郎等ノ口供ニ依レハ「カノ」於テ萬五郎ヲ養子ト爲スノ許諾ハ勿論其契約ヲナサ、リシト及ヒ其届書ニ「カノ」實印ヲ同人并ニ原田金次郎ノ面前ニテ押捺セシ等ノコトナキハ明瞭ニシテ萬五郎カ該届書等ヲ詐爲シ「カノ」實印ヲ擅コ押用シタル者ト認定ス然リ而シテ萬五郎カ明治十三年六月三日東京裁判所ニ於テ爲タル口供中ニ檢事局ニ於テノ口供ニ山崎カノカ養子ノコトハ自分獨斷ノ様記載アレトモ自分ヨリ喜三郎妻キシ「カノ」一應申談シサセタル云々ナリテ前供ヲ翻異スルモ「カノ」於テハ已ニ死去シ他ニ倚ル可キナキ無証ノ供出ニシテ其罪跡ヲ蔽ハントスルヲ遁辭ナリトス何トナシハ前書掲載スル處ノ同人カ口供「カノ」其他ノ供出ヲ符合シ眞實ノ白狀ナリト認定スレハナ

リ又宣告文ノ肩書ニ石田源次郎カ本籍ヲ掲載シタルモノハ上文ニ辨明セシ如ク山崎カノカ養子ニアラサルモノト判定セシ上ハ萬五郎カ本籍ハ源次郎方ノ同居タルモノナレハナリ又「カノ」及ヒ引合人ノ口供ハ相違スル云々申立ルト雖モ其本人等ニ於テ既ニ甘結セシモノナレハ萬五郎ニ於テ之レカ可否ヲ論ス可キ條理ハ之レナキモノトス夫レ斯ノ如キ理由ナレハ東京裁判所ニ於テ養子届書ハ萬五郎ノ詐欺ニ出テタルモノト判決シ宣告文ノ肩書ニ源次郎ノ本籍ヲ掲載シタルハ相當ノ處分ニシテ不法ノ裁判ニアラストス故ニ萬五郎カ上告ハ相立サルモノナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年六月十四日東京裁判所ニ於テ山崎万五郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル

第四百七十八號

〇判文酒類稅則違犯ノ件 明治十三年六月五日上告
明治十三年八月三十日判決

山形縣羽前國東置賜郡

萩生田村平民

鈴木辰次

明治十三年六月
三十四年

山形縣羽前國東置賜郡

々山村平民當時同郡萩

生田村平民鈴木辰次方

雇人

小關定次

明治十三年六月
二十八年

右兩名カ明治十三年六月一日福島裁判所米澤支廳ニ於テ密問ヲ受ケ
爲シタル口供左ノ如シ

鈴木辰次

一自分儀妻子有之文字少々相辨シ候兼テ本業ヲ以テ糊口罷在候處酒
桶不足ナルヨリ不圖不良心ヲ生シ其以前已ニ本縣酒造檢査委員御
出張ニテ釀造清酒御檢査ノ上御封印相成リタル桶壹箇當時清酒賣
捌キ空桶ニ相成リ居ルヨリ御成規ニ違犯シ其筋ニ御届ケモ不致シ
テ雇人小關定次ニ申聞ケ右桶ノ封印ヲ自儘ニ引延サセ未ダ檢査ヲ
受ケサル清酒壹石程右桶ニ汲移サセ置タル處明治十三年四月二
十二日尙又檢査方御立越シニテ御檢査ノ際前顯所業御不審相掛リ
始末御取糺シニ付雇人ノ所爲ナル旨申立候得ハ御寬典ノ御處分モ

可有之歟ト存シ右定次所業ナル旨詐テ御答ヒ致シ手續書ヲ以テ其旨申立置キ候處明治十三年四月廿五日米澤警察赤湯分署ヨリ御召喚ニ付前書ノ義御取糺シニ相成ル義思慮シ飽マテ定次ノ所業ニ致シ度キ念慮ニテ定次へモ御尋有之節ハ自己ノ所爲ナル旨申立ヘキ様深ク申合メ置キ同署へ出頭致シ候處前顯御糺シニ付尙又前同様事實相違ノ始末書ヲ進達致シ置候處今般米澤警察署ニ於テ前書ノ所業嚴重御取糺シヲ蒙リ有体申立候事

小 關 定 次

一自分儀前書辰次方ニ被相雇酒造稼キ罷在候處明治十三年四月廿二日午前九時頃辰次ヨリ兼テ造石御検査ノ上御封印相成リ候酒桶ノ内第四十壹號酒桶ハ當今賣捌キ明キ桶ニ相成居候ニ付右桶御封印ノ繩ヲ引延シ検査未濟ノ清酒壹石程移シ置クヘキ旨申聞ケニ依

リ右様取計候處同日午前第十時頃本縣酒造検査委員御検査トシテ御出張相成候處右不正ノ段御見咎メニ相成リ然ルニ辰次儀有ハ自分ノ所爲ナル旨御答致シ且手續書ヲ差出シ候處明治十三年四月廿五日米澤警察赤湯分署ヨリ御召喚相成リタル處尙又前顯御尋テノ節ハ自分ノ所業ナル旨御答ヒ可致ト深ク申合メニ付不宜義トハ存候得共其ノ意ニ同シ同署ニ於テ御尋問ノ際事實ニ相違シ自分ノ爲業ナル旨詐テ始末書ヲ進達致シ候處今般尙又米澤警察署ニ於テ深ク前書御審糺ヲ蒙リ有体申立候事

鈴 木 辰 次

右ノ口供ニ依リ明治十三年六月一日福島裁判所米澤支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

〔其方儀検査官ノ許可ヲ得ス雇人小關定次ヲシテ猥リニ検査清酒

ノ封印ヲ解披セシムル末検査官ノ認答ムル所トナリ該官及ヒ赤湯分署ニ於テ該一件尋問ノ際故テニ雇人一己ノ所爲ナル旨事實相違ノ答ヲ爲シ始末書ヲ進達致ス科律例第九十九條ニ依リ不應爲輕キニ問擬シ懲役三十日ノ贖罪金貳圓貳拾五錢申付ル

但検査官ノ許可ヲ得スシテ器械ノ封印ヲ解披スルハ酒類稅則第三則改正追加第八條ニ依リ科料金六圓申付ル

小關定次

其方儀検査官ノ許可ヲ得スシテ猥リニ検査濟ノ清酒ノ封印ヲ解披スルハ雇主鈴木辰次ノ指圖ナルヲ以テ科ナキモ該一件検査官ノ認答ムル所トナリ赤湯分署ニ於テ尋問ノ際辰次ノ依頼ニ應シ自己ノ所爲ナル旨故テニ事實相違ノ始末書ヲ進達致ス科律例第九十九條ニ依リ不應爲輕キニ問擬シ懲役三十日ノ處從ヲ以テ論シ一等ヲ減

シ同二十日ノ贖罪金壹圓五拾錢申付ル

山形縣九等警部東郷重光ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月五日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年八月二日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該判決文中酒類稅則第三則改正追加第八條ニ依リ科料金六圓申付タル刑ハ不當ト爲ストコロナシト雖モ律例第九十九條ニ依リ不應爲ニ問擬シ裁斷シタルハ不當ト認メサルヲ得ス抑モ被告辰次定次カ犯セシ罪狀ハ載セテ別紙供述書ニ在ルカ如ク検査官ノ許可ヲ得ス雇人小關定次ヲシテ猥リニ検査濟清酒桶ノ封印ヲ解披セシメ検査未濟ノ清酒ヲ汲移サセタル末酒造検査官ノ認ムル處トナリ該官及ヒ赤湯分署ニ於テ該一件訊問ノ際故サテニ雇人一己ノ所爲ナル旨詐テ事實相違ノ答辨ヲ爲シ始末書ヲ進達セリ依テ當米澤警察署

ニ於テ事實篤ト遂推問處全ク雇主辰次雇人定次ニ指揮シ検査濟清酒桶ノ封印ヲ解披セシメ検査未濟ノ清酒ヲ汲移サシメタル旨眞實ノ白狀ニ及ヒタリ乃チ辰次儀ハ酒類稅則第三則改正第八條ニ依リ科料金及ヒ告上不實事情輕キ者ヲ以テ論シ懲役八十日定次ナル者ハ雇主ノ指令ニ係ルヲ以テ科ナキモ該一件検査官ノ認咎タル所トナリ赤湯分署ニ於テ尋問ノ際辰次ノ依頼ニ應ジ自己ノ所爲ナル旨詐テ答テ爲シ事實相違ノ始末書ヲ進達シタル者ナルニ付從テ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處分ス可キ見込ニテ福島裁判所米澤支廳ニ公判ヲ要メシ處豈圖シ該支廳ニ於テ辰次儀ハ律例第九十九條ニ依リ不應爲輕キニ問擬シ懲役三十日ノ贖罪金貳圓貳拾五錢定次ナル者ハ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役二十日ノ贖罪金壹圓五拾錢ニ處斷シタリ夫レ之ヲ不服ト爲ス所以ノモノハ被告辰次

外壹名カ犯セシ罪狀ヲ推究スルニ検査官認咎メタル際自己ノ行爲ヲ隱秘シ雇人定次ノ所爲トナシ該官ニ不實ノ手續書ヲ差出シ剩レ赤湯分署ニ於テ糾問ノ際モ前條同様陳述シ事實相違ノ始末書ヲ進達スル等共ニ上チ詐ルノ所爲タリ則其罪宜シク例第二百四十七條上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル事情輕キ者ニ擬スヘキモノト考量ス然ルチ米澤支廳ニ於テハ告上不實ノ一罪ヲ擬スルニ例第九十九條ニ依リ不應爲輕キニ問擬シ聽贖セリ夫レ例第九十九條ハ上ニ告クルニ詐テ實ヲ以テセサル者ヲ比擬論決スルノ律ニアラス是ニ由テ之ヲ觀レハ不當ノ裁判ト認メサルヲ得ス依テ該裁判ハ不服ニ付別紙一件書類相添此段及上告候也

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ
鈴木辰次カ検査官ノ許可ヲ得ス雇人小關定次ヲシテ検査濟清酒桶

ノ封印ヲ解披セシメ検査未済ノ清酒ヲ汲移セシメシ末検査官ノ見
 認スル所トナリ該官及ヒ警察分署ニ於テ尋問ヲ受ル際故サラニ雇
 人一己ノ所爲ナル旨不實ノ答辨ヲ爲シ始末書ヲ差出セシ行爲ヲ以
 テ山形縣警部東郷重光ハ告上不實ニ問フ可キ者ナリト上告スト雖
 モ改定律例第二百四十七條ニハ凡對詔及ヒ奏事上書ヲ除ク外上ニ
 告ルニ詐テ實ヲ以テセサル者ハ云々トアリテ該件ノ如キハ之ニ問
 擬ス可キ者ニアラスト然リ而シテ福島裁判所米澤支廳於テ之ヲ
 不應爲輕ニ問ヒタルモ亦不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ自己ノ
 罪惡ヲ隱蔽シ以テ刑典ヲ逃避セント欲スルハ蓋シ人ノ常情ナレハ
 ナリ且ツ辰次ガ己レノ所爲ニアラストシテ雇人ノ所爲ナリト詐供セ
 シモ素ト己レノ罪ヲ輕クセシカ爲メニシテ雇人ヲ罪ニ陷レノトス
 ルノ意匠ニ出ルニアラサレハ法律ニ依リ罪ヲ問フ可キ限リニアラ

ス故ニ辰次ガ検査官ノ許可ヲ得スシテ器械ノ封印ヲ解披セシハ酒
 類稅則第三則改正第八條ニ依リ科罰スルノ外問フ可キノ罪ナシト
 ス又小關定次ガ検査官ノ許可ヲ得スシテ封印ヲ解披セシハ雇主ノ
 指示ニ從ヒシ者ナレハ罰ノ科ス可キナク且雇主ノ命ニ因リ清酒ノ
 封印ヲ解披セシテ自己ノ所爲ナリト詐言セシハ既ニ上文ニ辨明セ
 シ如クナルヲ以テ罪ヲ問フ可キ者ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月一日福島裁判所米澤支廳ニ於テ
 鈴木辰次外一名ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

鈴木辰次

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ検査官ノ許可ヲ得スシテ器械ノ
 封印ヲ解披セシハ酒類稅則第三則改正第八條ニ照シ

科料金六圓

小 關 定 次

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ

無罪

第四百七十九號

〇判文詐欺取財ノ件 明治十三年五月十七日上告
明治十三年八月三十一日判決

大坂府下東成郡東高津

村百七十番地士族堀内

命義弟

堀 内 右 吉

明治十三年五月
二十二年五月

明治十三年五月十七日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ受タリ

其方儀明治十三年三月二十二日入江源四郎ヨリ他ノ事ニ付金貳圓
受取タレモ小野定五郎ヨリ同人へ貸付金取立ノ依託ヲ受ケタル方
へハ孫四郎ニ資力ナキヲ以テ受取ラサル旨申供スレモ孫四郎ニ於
テハ金貳圓貳拾壹錢ヲ償却シ証書ヲ拔取リタル旨申立現ニ該証書
カ孫四郎ノ手ニ存スルト該負債ヲ償却スルノ資力ナキト申供スル
ノ日ニ當リ他ノ事ニ付金貳圓ヲ受クルノ理無之トノ証據ニ依レハ
全ク定五郎告訴ノ如ク貸金ヲ取立該証書ヲ返戻シタルモノト信認
ス依テ右科賍金貳圓貳拾壹錢詐欺取財律竊盜ニ準シテ論シ破廉耻
甚ニ係ルヲ以テ除族ノ上杖六十申付ル

但賍金賠償ノ爲メ資力限リ取上ル

堀内右吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年五月二十七日
大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀明治十三年五月十七日大坂裁判所ニ於テ御宣告ニ相成候段不
 服ニ付要タル廉々左ニ奉上告候
 明治十三年五月日不知大坂府下島上郡安滿村番地不覺平民小野定
 五郎ト稱ス者豈圖手私ヲシテ大阪裁判所へ奉告訴候事實ハ乃チ元
 治年限白紙印紙不調用借主請人カ姓名ノ處實印無ク破毀シ金額四
 圓五拾錢タル該証書カ借主ヨリ金額皆濟ス証據ハ受取証ト仲裁人ト
 ノ証據速ニ判然セルカ退テ証據ヲ上仰仕候該濟タル証書ヲ貸主右
 定五郎カ証書ト唱へ私カ預リ奪トノ旨上仰加之同府下同郡同村番
 地不覺平民入江孫四郎ト稱ス者ハ該証書ノ受人タル旨ニテ同ク裁
 判所へ申供スルニハ該証書ヲ私カ所持シテ右定五郎ノ代理ト成テ
 引合ニ越サレ候ニ付金額貳圓貳拾壹錢ヲ償却シ該証書ヲ拔取タル
 旨ニ付テハ孫四郎ノ手ニ存スルトノ上仰ニ付即大阪裁判所ヨリ御

呼出シニ付頭仕候處乃チ該証書ヲ拜見仕候ハ前顯ノ通ニ付然ニ
 私ニ於テハ右定五郎孫四郎告訴ノ如キハ秋毫モ之レ無キニ付右兩
 人カ姦曲惡智才ノ甚キ處ヲ實以テ驚恐ノ至リ而テ斯ノ如キハ秋毫
 モ之レ無ト申供シ奉ル然而テ今將曲直ヲ明ニスルノ要タル也即定
 五郎孫四郎告訴ノ如ハ天下至當ノ証ト爲ノ確手タル証據ハ勿論秋
 毫ノ証據ニモ非ス或相互ニ申供或何チシテ願慮願念カ情態ヲ以テ
 スレ共裁判ニテ見込ム處ノ証據ニモ非ス然則右定五郎孫四郎ハ私
 チ惡ミ嫉ムノ心底ヲ以テ速ニ該件ヲ詐リ成ヌヲ以テ私チシテ罪ニ
 陷シチトサソ謀ル處所謂虛飾ノ甚キヲ以テ申供スルニ付テハ証
 告タル處ニ當ル証據ニ據レハ也然ニ明治十三年五月十七日詐欺取
 財律竊盜ニ準シ破廉耻甚ニ係テ以テ除族ノ上杖六十ノ御宣告ニ付
 速ニ不服ヲ抱キ奉ル御願慮願念カ情ヲ觀察在ケル中ニ聊カ御概論

未開野蠻ノ如キ判決ト存シ奉ルニ付此段大阪囚獄署ニ於テ悲歎シ且身体ヲ苦感致スル堪サルニ付固ヨリ恐縮ノ至リニ堪サルハ勿論ニシテ御審院ノ御判決ヲ奉願上候然而私申理奉ル處ノ証據物調へ中ニ付直ニ追願ヲ以テ上告仕候

辨明

上告人カ明治十三年五月十一日大阪裁判所檢事局ニ於テ爲シタル口供閱スルニ〔摘録〕本年三月廿二日頃小野定五郎ヨリ同人亡父佐右衛門カ吉田伊右衛門ノ亡父甚助へ明治三年中金拾壹圓貸渡シ其節請人ハ同村孫四郎ノ亡父係右衛門ナリ然ルニ甚助ノ相續人伊右衛門ハ當今疲弊中ニ付受人ノ相續人孫四郎へ談判シ受取具トノ依頼ヲ受ケ即チ該証文ヲ定五郎ヨリ受取孫四郎へ引合ニ及ヒタルニ孫四郎ニ於テ辨償スヘキカナキ故本証書ハ同日定五郎へ相返シトア

レハ當時孫四郎ヨリ檢事局へ差出シタル書面ニ〔摘録〕定五郎ヨリ申上候通本年三月二十二日堀ノ内右吉罷越其節金貳圓廿壹錢相渡シ別紙証書取置申候トアリテ現ニ其上告人カ定五郎ヨリ預リシ金拾壹圓ノ証書ハ義務者孫四郎ノ手ニ在ルヲ以テ原裁判所カ証據ニヨレハ全ク定五郎告訴ノ如ク貸金ヲ取立該証書ヲ〔義務者孫四郎へ返戻シタルモノト認定シ詐僞取財ヲ以テ論シタルハ相當ニシテ敢テ不法トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルニ因リ大坂裁判所ニ於テ明治十三年五月十七日堀内右吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモノ也

○判文(父ヲ毆テ傷スル件)明治十三年七月五日上告
明治十三年八月卅一日判決

大阪府西成郡西高津村

九番地平民久兵衛男

小田藤吉

明治十三年六月
二十四年六月

右藤吉カ明治十三年六月九日大阪裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀小田久兵衛ノ實子ニシテ久兵衛ハ小間物商致シ實母「カメ」ト三名相暮シ居候處自分ハ放蕩ニシテ兩親ヲ養フ能ハサルヲ以テ兎角家内不和熟ヨリ明治十二年七月ヨリ實母ヲ連レ府下高津町五番丁へ別居致シ候得トモ思ハ敷稼方無之ニ付母ヲ父方へ差戻シ自分ハ講釋シ修業ニテモ致シ度ト存スルヨリ其相談旁酌酌シ上明治十

三年五月廿六日午後七時三十分頃右父方へ立越シ候處同人留守中ニ付表ノ戸ヲ叩キ居ル候處其節姓名不知父方隣家松本宇之助罷越シ何故此家ヲ叩クヤト相答メ候ニ付自分ハ該家ノ主人久兵衛ノ長男ナリ決シテ彼是申ス間敷杯ト口論致シ居リ候場合久兵衛歸宅シ自分へ申聞ケルハ此方ノ留守中ハ宇之助へ萬事相託シ有之ニ何チ彼是申ス甚タ心得違ヒナリト嚴シク呵責ヲ受ケタルヨリ酌酌ノ余リ憤怒ヲ發シ其節持合セ居ル銃砲ノ鎖ニテ作リタル込矢ヲ以久兵衛ノ面部ヲ打チ且ツ突キ候所間モナク巡查立越サレ召捕相成候事一右突傷鼻骨左側ニ直徑壹分五厘深サ壹寸ニ有之旨承知仕候得トモ何分酌酌ノ上ナシタルモノニテ素ヨリ殺スノ念慮ニハ無之候事
右ノ口供ニ依リ明治十三年六月廿九日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月廿六日銃砲ノ込ニ矢ヲ以テ父ヲ突キ傷ヲ負
ハスル科律例第二百二十八條ニ依リ懲役終身申付ル
藤吉ニ於テハ大阪裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月五日
大審院ニ上告スル要領左ノ如シ

私儀明治十二年七月中母カメ同道京都府下へ出稼致シ母カメ俱ニ
本年六月廿八日午後第七時頃歸宅候處父久兵衛ハ留守中ニテ戸締
リ有之ヲ母カメニ於テ之ヲ明ケ放シ内へ這入り酒ヲ求メ母カメ俱
ニ喰酒ノ折柄父久兵衛立歸リ戸締致シ置キタルニ何者ナレハ我カ
宅へ這入り居ルト立腹ノ体ニテ矢庭ニ打テ係ラントスルニ依リ倅
藤吉ナリト答へ其上相談トスルニ猶打掛ルニ付父ノ持タル杖ヲ私
取タクリ父ノ身ヲ隔テントスル拍子ニ不圖父ノ面体へ少々傷付タ
ル譯ニシテ私ヨリ打擲シタル義ニハ毛頭無之間今一應其隣家ノ者

へ尋問ノ上審究アラン事ヲ奉願上候

辨明

凡口供ハ犯人ノ申供スル所ヲ記載スルモノニシテ既ニ口供證聞ノ
時犯人ニ於テ相違ノ廉アリト思量セハ即時申立其改正ヲ求ムヘク
又本人ニ於テモ自ラ犯カ、ル罪ヲ記載アル口供ニ捺印スヘキ條理
ナシト爲ス然ルニ被告藤吉カ大阪裁判所及ヒ大阪府長堀橋筋警察
署ニ於テ捺印シタル口供ニ銃砲ノ込矢ヲ以テ父ヲ突キ負傷セシメタ
ル顛末ヲ明言シタル以上ハ該口供ハ眞實ノ白狀ニシテ藤吉カ自認
スル所ナリ且父久兵衛カ告訴狀及ヒ引合人松本宇之助カ手續書ヲ
觀ルモ各被告カ口供符合シ毫モ疑ヲ容ルヘキ形迹ナキ者ト爲ス
故ニ被告カ申立ハ不相立申立ナリト確認シ更ニ其隣人ニ就テ之カ
審問ヲ要セサルナリ

判決

右ノ如クナルヲ以明治十三年六月廿九日大阪裁判所ニ於テ小田藤吉
へ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキコ依リ上告狀却下スルモノ
ナリ

第四百八十一號

〇判文竊盜ノ件 明治十三年七月九日上告
明治十三年八月三十一日判決

茨城縣常陸國多賀郡中

戸川新田平民

菊池忠次郎

明治十三年七月
二十七年十月

右忠次郎カ所爲ニ對シ明治十三年七月一日水戸裁判所ニ於テ左ノ裁
判ヲ云渡シタリ

其方儀木原清之丞方ニ於テ金圓竊取スルニアラス預リ金ヲ費用セ
シト供出スト雖モ其預リタル証憑之ナク及ヒ事主清之丞ノ申告ニ
依リ竊盜ノ所爲タルハ明白ナリ即チ明治十三年六月三日警察官面
前ニ於テ甘結捺印セシ口書ハ眞實ノ白狀ナリト認定ス右科賊盜律
竊盜條ニ依リ贓金壹圓以上ナルヲ以テ懲役六十日申付ル
但贓金ハ資力限り追徴ス

菊池忠次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月九日上
告ノ要領

第一 上告人ハ該金員ハ竊取セル者ニ非ス清之丞ノ紙入ヨリ取出
シ渡シタルヲ預リ置キ費用セシモノナリト云ヒ告訴人ハ行李中ヨ
リ竊取セラレタリト云フ依テ清之丞ト對決ノ吟味ヲ乞ヒシニ斥ケ
テ採用ナク前記ノ通り宣告セラレシハ審理不盡ノ裁判ナリト云

第二 警察官ノ吟味ヲナス當初ニ本件ハ木原勇藏ノ告訴ニ係ルモノナリト示諭シテ其審糾ヲナシ結局水戸裁判所ノ宣告狀ニ事主清之丞ノ申告ニ依リ云々トアレハ告訴人兩名アルカ如シ警察官ノ云フ所是ナラハ裁判官ノ宣告スル所非ナラン是非果シテ何レニ在ルヤ之レ上告人カ審理不盡ノ裁判トナスニナリ

第三 該宣告書ニ警察官面前ニ於テ甘結捺印セシ口書ハ眞實ノ白狀ナリト認定スレト之アレハ抑警察官ノ面前ニ於テノ陳述ハ手續書ニ明記スル如ク全ク誘導ノモノニシテ眞實ノ白狀ニ無之候法官ニ於テ之レヲ眞實ノ白狀ナリト認定セラレシトセハ必スヤ之レヲ明証スルノ確乎タル憑証ヲ定メ而シテ聽斷セサルヘカラス然ルニ水戸裁判所ハ一ノ傍証モナキ口書ヲ以テ聽斷ノ標準トセラレシハ審理不盡ノ裁判ナリ

辨明

第一條

上告人忠次郎カ明治十三年六月三日警察官ノ面前ニ於テ爲シタル供狀ヲ閱スルニ摘録柳行李ニ入レ取片付タルヲ認シヨリ不計盜心ヲ生シ同日午後三時頃家内ノ透ヲ窺ヒ右行李ノ中ニ入有之小倉紙入ノ中ヨリ紙包ノマ、金圓ノミ盜取相改候處貳圓紙幣二枚壹圓銀行紙幣二枚都合六圓有之云々トアルヲ以テミレハ忠次郎ハ清之丞カ金圓ヲ竊盜シタルハ自白ニ於テ顯然ナリトス依テ原裁判所カ其自白ノ供述ト事主清之丞ノ申告トヲ參照シ認定セシ裁判ニシテ相當ノ裁判ナリトス

第二條

上告第二項ノ旨趣ハ此ヲ將テ忠次郎カ裁判上ニ對シテ其審理ノ未

タ盡スモノト云フヲ得サルナリ如何トナレハ警察官ノ吟味並ニ裁判官ノ裁判ヲ爲ス手續ハ各其明証ノ存在シタルモノト認メタル處ニ就キ之カ認定ヲ爲スモノナレハ其憑証ノ不完全ナルヲ採用シタル以上ニアラサレハ之カ申立ニ對シ辨明ヲ與ヘサルナリ

第三條

上告人忠次郎ハ警察官ノ面前ニ於テ拇印シタル口供ハ全ク其誘導ニ出タルモノニシテ眞實ノ白狀ニアラスト云フト雖モ其眞實ニアサル証左ヲ舉テ以テ取消ヲ乞ハサルヘカラス上告人ハ曩ニ其証左ヲ舉ケサリシニヨリ警察官ノ面前ニ於テナシタル口供ヲ眞實ト認メタルハ相當ニシテ敢テ不當トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十三年七月一日水戸裁判所ニ於テ菊池忠次

郎ニ云渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者ナリ

第四百八十二號

○判文詐欺取財ヲ無罪トセシ件明治十二年十一月六日上告
明治十三年八月三十一日判決

大阪府攝津國東區南久
太郎町二丁目二番地平
民

柴山 太一郎

明治十二年十月
二十七年八月

右太一郎カ明治十二年十月十日大阪裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供
左ノ如シ

自分儀木綿商ノ者ニ有之候處同商東區南久太郎町三丁目辻安治ト

ル者木綿買取リ吳可申ト存シ明治十二年四月二十三日東區南久太郎町一丁目三十五番地木綿商扇勘助方へ罷越シ河内木綿買取ル客人有之ニ付一見致度旨申聞ケ候處承諾致シ吳レ同日同品七百三十一疋持參有之ニ付預リ置キ同廿六日至リ彌賣買取極メナシ當品二十五疋持參有之併セテ七百五十六疋此代價五百六拾圓九拾五錢五厘ニ直組則チ賣端書ノ通り代金ノ儀ハ四月二十八日半額殘ル半額ハ五月五日ト取極メ申候然ルニ自分目論見ノ通辻安治方へ立越シ相談ニ及ヒ候處買取吳不申就テハ東區南久太郎町二丁目木綿商三木治助ニ則チ四月二十六日右木綿悉皆代金二拾七圓九拾七錢ノ損失ニテ五百三拾貳圓九拾八錢ニ賣却シ但シ賣端書ニ則金ト有之候得共其實ハ扇勘助へ四月二十八日半額五月五日半額可相渡等ニ付右二期ニ受取度旨約定ナシ尤モ治助ヨリ會テ借用セシ金員三百

四拾壹圓三拾五錢八厘有之此分ハ暫時猶豫ノ所談相整ヒ然ルニ四月廿八日ニ至リ治助違約ナシ僅ニ百五拾圓相渡シ吳候ニ付此内一百圓ヲ勘助へ相拂ヒ候處半額ノ約定ニ付百圓位ハ受取不申ト相答へ空敷引取り殘ル五拾圓へ右百圓ト外ニ拾圓ヲ加へ合金百六拾圓ヲ會テ借用罷在候辻安治へ返却致シタリ故ニ勘助へ廿八日拂ノ等ヲ五月十日迄ノ延期相頼ミタル處承諾致シ吳レ勘助ハ承知セ種々金調スルモ不相整再ヒ五月十六日迄延期依頼ニ及ヒ候處尙又承諾致シ吳レ勘助ハ承知セ候處同日ニ至リ尙モ金調ナラサルヨリ扇勘助へハ斷リナク金策ノタメ兵庫縣下但馬國豊岡柳町谷岡友平方へ立越候處金調不相成六月三日歸阪致シ候處扇勘助ヨリ自分ヲ取込ト仕成シ訴へ既ニ御處分濟ニ相成居候段傳聞シ右ハ現ニ賣買ノ約ヲ成シ賣端書受取リ且ツ金子手拂期限モ猶豫致シ吳ナカラ自分

ヲ犯罪人トナシ出訴セシ段何トモ遺憾ニ堪ヘ難ク明治十二年六月十一日當御局へ買取品取込ニ訴ヘラレタル吟味願出候處却テ自分御留置ニ相成抑モ扇勘助ヨリ買取リタル木綿代金ハ人ノ手ヨリ金員出ル目的ニテ買取リシヤ御尋問ニ候處右ニモ申上候通り谷岡友平ヨリ借用セル目的又同人方ニテ金調ナラサル時ハ東區住吉町田中庄七若シ同人方ニテ金調ナラサル時ハ京都府下丹波國山屋町滋賀屋忠兵衛事渡邊忠次郎ナリ既ニ田中庄七ニ於テハ扇勘助一件自分取込無之段判然セシ上ハ金五百圓位ハ用達可致約定ナシ置キタリ又渡邊忠次郎ニ於テモ頗ル金満家殊ニ親族ニモ有之何時タリトモ相談ニ及ヒ候得ハ四五百圓ノ金調ハ出來可申ナリ故ニ扇勘助ハ少シモ迷惑相掛ケ不申心得ニテ買取タルモノナレハ之ヲ証據セシ義ニハ無之シテ買取タルニ相違無之間飽迄勘助ヲ御取調相成

度候

然レモ明治十二年五月十六日兵庫縣下但馬國豊岡柳町谷岡友平方へ立越ス節扇勘助へ斷リテ致サス且ツ三木治助へ賣却セシハ明治十二年四月廿六日コアレモ直組セシハ其以前廿四日コシテ殊ニ金二十七圓九拾七錢ノ損失ニテ賣付シ凡ソ商人ナル者ハ利ヲ見テ賣買スル等ナルニ勘助ト直組セシハ四月廿六日ニテ治助ト直組セシハ其已前廿四日ナリ田中庄七ニ於テハ金百五拾圓位ノ外貸與フヘキ約ナシタル義ハ勿論又金策ヲモ不相調旨申立居リ且ツ渡邊忠次郎ニ於テモ親族無之而シテ自分相談ヲ遂ケルモ用達相成カタク旨申立居リ加之ナラス自分資力モ無之モノナレハ勘助へ可相拂金員無之等コレ詐欺ノ憑據ナリ又曰ク三木治助ヨリ二期ニ可請取等ノ處同人違約致シ夫カタメ扇勘助へ迷惑相掛ケタル旨申立ルモ治

助ヨリ義ニ木綿買取リノ代金ト差引シテ同人ヨリ金四拾圓八拾六錢六厘ヲ受取リ之ヲ他ニ費用セシナラシ右ハ畢竟勘助ヨリ受取タル賣端書ヲ以テ買取品タリト供飾スルモ同人へ償還スルノ念ナキモノニシテ則チ河内木綿七百五十六疋有勘助ヨリ詐取セシモノニ相違無之旨御申聞ニ相成候

然レモ自分ニ於テ決シテ詐欺ノ念慮ハ無之則チ田中庄七ヨリ金五百圓余借用スル約定ナシ置キタルニ相違無之間同人ト對審相願候又々金二拾七圓余損失シナカラ賣却スルモ右ハ止チ得サル場合ニテ後來商法ノ防障ニ相成ルニ付賣却セシ義ニ候事 明治十二年七月三日

自分儀檢事局ニ於テ申立ツル如ク仮口供ノ通相違無之ト雖モ扇勘助ヨリ取置タル賣端書ハ明治十二年四月廿六日付ニシテ其實ハ同月廿四日歟廿五日取極致シタル義ニ付右日付御書改メ無之テハ口

供へ海印致サス且田中庄七ヨリ自分へ金百五拾圓位貸與レル約定致タル旨申立ツルモ其實際ハ金五百圓余貸與レル旨口約束致タルニ相違無之候事 明治十二年十月十日

明治十二年十月二十七日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡タリ

其方儀明治十二年四月廿六日同區南久太郎町一丁目扇勘助ヨリ河内木綿七百五十六疋取取ル賍金五百貳拾九圓余ノ科詐欺取財律ニ依リ竊盜ニ准シテ論シ懲役十年申付ル

但事主勘助ヨリ該品ヲ代金五百六十圓九拾五錢二厘ニ買取ル約定ヲ爲タル賣端書ハ明治十二年四月廿六日付ナレ共其實ハ同月廿四日歟廿五日ノ取極ナル旨申立ルモ檢事局ニ呈タル訴狀中廿六日ト明記シタルヲ以テ同日ニ成立タル約定ト認定ス且該金ヲ同日三木治助へ金貳十七圓九拾七錢ノ損耗ニテ金五百三拾貳圓

九拾八錢ニ賣却シ治助ニ於テハ右代價ヲ貸金ト相殺シ僅ニ金百五拾圓ヲ渡シタルニヨリ右金ノ内百圓ヲ以テ事主勘助ニ消却シタル處事主ニ於テハ約定金ノ半高ニモ足ラサルヲ以テ之ヲ受取ラス是ニ於テ右百五拾圓ヲ辻安治ニ消却シ尙ホ金策ヲ名トシテ他管へ擅出シタルヲ見レハ先キニ該品ノ本價ヨリ金廿七圓九拾錢余ノ損耗ヲ爲シ治助ニ賣却シタルハ全ク治助ニ係ル負債ノ爲メニ渡シタルモノト認メサルヲ得ス事主勘助ニ於テ百圓ノ授受ヲ拒ミタルヨリ直ニ該金ヲ他ノ負債ニ消却シタルハ即チ事主勘助ハ償却ノ念慮ナキモノト信認ス而シテ田中庄七ヨリ金五百圓借受クル約ヲ爲シタル旨申立ルモ庄七ニ於テハ明治十二年六月十日頃金百五拾圓貸與フヘキ約ハ爲シタレモ金五百圓ノ約ハ爲ササル旨陳述スル上ハ到底金策ノ目的ナキモノニシテ詐取狀情

明白ナルモノト認定ス右品賠償ノ爲メ資力限リ取揚ル
 一 淺部和三郎伊藤定次郎ヨリ木綿小倉並紺紵類三百五拾余反詐取タルノ訴ヲ受ケ警察署ニ於テ口供ニ捺印シタルモ詐取ニ非サル旨証憑確實ナルニヨリ論セス
 柴山太一郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年十一月六日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

扇勘助ヨリ木綿七百五拾六疋代金五百六拾圓九拾五錢貳厘ニ買取約定ハ右代金ニケ度割可渡ス之夫々延期ヲナシタル公然タル賣端書キテ取リチキ尤公商公買ノ習慣ニシテ金融都合ニ依リ事主勘助ト示談ヲナシ再度再三之延期爲シタルモノヲ未タ其期日來ラサルニ自宅へ一度ノ斷リモナク訴出タルヨリ詐欺取財ニ宣告セラレタ

ルヲ確實タル賣端書モ有之上ハ右律ニ問ル、其理ヲ得ス

第二條

事主勘助ヨリ該品ヲ代金五百六拾圓九拾五錢貳厘ニ買取約定ノ端書ハ明治十二年四月廿六日付ナレトモ其實ハ同月廿四日歟廿五日ノ取極ナル旨申立ルモ檢事局へ呈タル訴狀中ニ廿六日ト明記シタルヲ以同日ニ成立タル約定ト認定スト云々ノ宣告ナレトモ大イニ反對スルヲ以同局ニテ御吟味中數度上伸ナシタルナリ然ルニ事主勘助ト相調モナク日付ヲ以テ証跡トセラレタルハ未ダ判決ノ御趣意了解ナシカマシ依テ此條ヲ明判アリタシ

第三條

同日三木治助へ金貳拾七圓九拾七錢ノ損耗ニテ金五百三拾貳圓九拾八錢ニ賣却シ治助ニ於テハ右代價ヲ貸金ト相殺シ僅ニ金百五拾

圓ヲ渡タルニヨリ右金ノ内百圓ヲ以テ事主勘助ニ消却シタル處事主ニ於テハ約定金ノ半高ニモ足ラサルヲ以テ之ヲ受取ラス是ニ於テ右金百五拾圓ヲ辻安治ニ消却シ尙ホ金策ヲ名トシテ他管へ擅出シタルヲ見レハ先ニ該品ノ本價ヨリ金貳拾七圓九拾錢余ノ損耗ヲナシ治助ニ賣却シタルハ全治助ニ係ル負債ノ爲ニ渡タルモノト認メサルヲ得ス云々トアレトモ同日賣渡シタルコアラヌ前條ノ如クニ廿四日歟廿五日トアレトモ能ク熟考スルニ全ク廿四日直組行届キタリ而テ賣端書ハ勘助ヨリ買取タル木綿反數之内二十五疋不足スルニ付跡ヨリ直ニ持參スル旨申ヲキ廿六日ニ右不足セル廿五疋ト該木綿端書相添本人自ラ持參セシモノニ付廿六日ノ日付ニナリタレトモ廿四日ニ買取ル約定ヲナシタル上ハ自分ノ自由ノ權理ニアルモノニシテ貳拾七圓九拾七錢ノ損耗セシハ則該品ヲ俗ニ半唐ト唱へ

半ハ洋銀糸ニテ製シタルモノニテ時々相庭モ高下有之ニ付利益ノ
ミアルコ必セヌ商法賣買ノ品物コハ朝夕ニ求テ夕ニ賣ルモ時ト
シテハ損耗相立ト間々コレアリ而シテ尙該金百圓授受ヲ拒ミタル
ヨリ同月三十日他ノ負債ニ消却ナシタレ直ニ渡タルニアラス事
主勘助ノ延期承諾ヲ得而爲シタルコニテ尙外コ金策ノ目的アレハ
ナリ且又金策ヲ名トシテ他管へ出立セシハ承諾ナシタルニヨリ發
足セシ者コシテ決シテ擅ニ出タルニアラサルナリ

第四條

他ノ負債ニ消却シタルハ即チ事主勘助ニ償却ノ念慮ナキモノト信
認ストアレヒ素ヨリ治助ニ係ル負債ノ爲メニ渡タルコアラヌ該代
金ハ別段ニ受取ル等ノ約ニテ治助ニ係ル負債ハ更ニ延期示談行届
タルモノニテ差引貸金ト相殺スルノ約定ニテ賣渡シタルコアラヌ

而ルニ治助手本不都合生シタルヨリ勝手ニ差引セシモノニテ全ク
事主へ償却ノ念慮ナキモノト信認ストアルハ其意ヲ了解ナシカク
シ

第五條

田中庄七ヨリ金五百圓借受クル約ヲ爲シタル旨申立ルモ庄七ニ於
テハ明治十二年六月十日頃金百五拾圓貸與フヘキ約ハ爲シタレヒ
金五百圓ノ約ハ爲サ、ル旨陳述スル上ハ到底金策ノ目的ナキモノ
ニシテ詐取ル狀情明白ナルモノト認定ス右品賠償ノ爲メ資力限リ
取揚ルトノ御宣告ナレトモ先キニ田中庄七ナル者十二年六月十日
ト上伸スルトアルトモ其實ハ四月廿三日約定ナシタルモノニテ然
ルニ田中庄七ヨリ上伸スル處ヲ以テ金策ノ目的ナキモノニシテ詐
取ノ狀情明白ナルモノト認定サレルノ審理ハ不服ナリ何トナレハ

庄七ト自分ト墮タル約ヲナシタル証アレハナリ

第六條

本殿檢事局及刑事課ニテモ自分仮口供始メ口供ニ捺印不致未タ審問中遅々上伸ナスヘキ旨モ有之而ルニ突然仮口供ヲ檢事局ニテ書作セラレ捺印ナスヘキ旨係リ法官ヨリ申付ラレタレハ該文中數條口述セサルヲ書入ラレタレハ捺印ナシカタキ旨ヲ上伸ナシタルナリコレヲ以見ル時ハ法官ノ適宜ニ出ルモノ、如シ何トナレハ仮口供及口供ニ至ルマテ本人ノ認ムヘキ官之ニ代リテ綴書セラル、モノナレハ本人ノ陳スル如クナルヘキヲ然ルヲ仮口供ニ筆ヲ加ヘ其文意ヲ自由ナラシメ其罪科ヲ自在ナラシメル等係リ官ノ適宜ノ如シ嗚呼大法ヲ掌リ人民ヲ保全セラレ亦民庶ノ信認スルノ法官ニシテ残酷無類不當抑壓ノ裁決セラル、ハ豈曖昧不公ノ所爲ト云

ハン乎

右ノ如ク陳スル所徒ニ官ヲ煩ハシメ肆ニ私意ヲ張ルモノニアラス單ニ純然タル調査ヲ受至當ノ審判セラレシヲ奉仰幸候也

明治十二年十一月二十五日重テ左ノ明細書ヲ差出シタリ

自分去ル六日明細書ヲ以上告ニ及タレハ尙明細ニ漏落シタルヲ以左ニ追告セントス請フ御憐察アツテ至當ノ御調査アランヲ乎

第一節

一 本年四月廿四日扇勘助ヨリ木綿七百五拾六疋買求タル原因延期証憑別紙之如シ但シ別紙寫シ書ヲ而テ右品約定起因シ本年四月中旬旬ヨリ手頭ヲトシテ百廿五疋ヲ差送リタルニヨリ粗買請ル約定ヲナシ置キタル處同月廿日頃本人自ラ罷越該品外ニ客人有之旨ヲ申持歸リタリ而レハ其節ハ自分義ハ西而ルニ廿二日頃ニ至リ再ヒ右京ヘ行キタル留守中ナリ

品差送り彌以買求吳ノ度旨依頼。付其後廿四日直組ニ爲シ買入
 リ而シテ辻保治へ賣却スルノ目的ノ處豈圖ラン該品類俄然トシテ
 不景況ニテ同人へ買トラス而ルニ三水治助ナル者該品請求ノ客人
 有之旨ヲ申自分店ニ有之ヲ一見シ爲シ而シテ八木榮助和田嘉助ト
 三名同伴ニテ私シ宅へ罷越シ双方立會ノ上篤ト熟見ノミ立歸タリ
 而シテ廿六日三水治助へ直組取極メ即チ代價即金ノ約定ニテ賣却
 シタリ而レモ同人ニハ且テ三百四拾壹圓三拾五錢八厘借金アリ該
 負債ハ更ニ延期ノ示談行届タリ該延期ノ證據ハ同人カ檢事へ呈
 ルニ漸ク廿八日ニ至リ百五拾圓ヲ持參セリ輒チ該金ヲ扇方へ持行
 百五拾圓ノ内百圓ヲ渡シタル處百圓ニテハ半高ニモ定テサルヲ以
 右金返却スルニ付尙百五拾圓ノ都合ナシ相渡スヘク旨申タレモ半
 金相揃ヒタル節請取ヘント差戻シタリ而レハ後ノ期日迄テニテ苦

ルシカラスヤ相尋チタル所右期限ニテ半高チ間ニ合セ吳レタク旨
 相答ダリ明日ト云ハ判書通り是ニ依テ治助ニ係リ金調迫リタル處
 而ルニ治助方播州出來ノ半唐木綿三千反余買附品有之ヲ以該品荷
 着次第右品ヲ以金融致シ五月五日迄ニ相渡スヘント申ニ付扇方約
 定日ト同日ナルヲ以依頼ニ應シタリ而シテ三水治助ノ返報チ疎居
 タル處彌五月十五日頃ナラテハ右木綿不着ノ由ニ付尙勘助ニ係リ
 依頼ニ及ヒタル所同人承諾ナシタルニ付治助へモ日限延期ナシタ
 リ然ルニ十四五日ノ頃ニ至リ右荷物未ダ不着ノ由ニ再度違約スル
 ニ付而ルニテハ勘助へ相立サルニ付田中庄七ノ約定タレハ右金ニ
 テ相渡スヘント存シタレモ右木綿ハ損耗立テタルヲ故實情ヲ勘助
 へ明カシ立質情ハ損耗五月十五日ヨリ更ニ一ヶ月ノ延期ニ相減リ度
 旨依頼ナシタル處勘助ニ於テモ折節右木綿類下落ノ景況ニテ商法

人相互ノコナルハ承諾致シタリ然レモ今般ノ延期ハ再三ノコ故確
ト約定日ニ相渡シ呉レヘコ旨申スヨリ自分コ於テモ三木ニカ、
ハラス他縣ニモ金主有之ニ付本般ノ約定期限ニハ屹度相渡スヘキ
約ヲ爲シ置キタリ右コ付當地不都合ノ節ハ他縣へ出發ナスヘコ旨
十六日コ扇方へ斷リ置タリ但シ田中庄七へ約定ノ豫備金ハ有レモ
ヨリ尙右延期中他縣ノ金調セント欲シト付谷岡ノ金ハ利安ク付ニ
行キタリ然レモ扇ノ延期ナシタルコヨル也然レモ右他縣但馬國豊
岡柳町谷岡金策不調ノ節ハ兼テ豫備ノ爲メ約定ナシ置ク田中庄七
友平方ナリ方ニテ都合スルノ思慮ナリ然ルコ右他縣ノ金策不調ニ付歸府セシ
トスル際自宅ヨリ書狀至着スルト雖モ明細コハ相分ラス然レモ六
月三日歸宅セシ即刻田中方へ罷越前約ノ如ク金五百圓余借受度旨
申入タル處庄七コ於テモ約束ナレハ貸シ與フヘシ然レモ貴子留主
中全商業ノ者ヨリ不當ノ訴ヲ受居タル、由シ先該訴セシ理由コ付

始メテ不當ノ訴ナルコチ知リタル也而シテ尙源ヲ百方聞合タル處
淺部和三郎ナル者ト脅議ノ上自分所有ノ賣品ト淺部方へ相渡スヘ
キ買物代ト交易ノ約クテ致シ置キ他出中右品ヲ淺部方へ持歸リタ
リ而ルチ伊藤定次郎ナル者自分他へ行キシハ金子不如意ヨリ脱走
ナシタルト想像シ尙淺部へ渡シタル品不正品コテ則自分詐取ル云
々ト不當ノ訴ヲ致シタリ尤伊藤定次郎へ渡スヘキ買物代價ハ未タ
期日來ラサルヲ取込云々ノ御訴コ及ヒタリ是ニ依リ淺部へ渡シタ
ル品ハ不正品トシテ警察署へ淺部ナル者ヲ召寄ラレ右伊藤へ假下
ク申付ラレタリ而リ然ル處右淺部へ相渡シタル品數ノ内半カハ者
自分他ヨリ仕入レタル品半カハ者伊藤ヨリ買入タル品ナリ是レニ
依テ伊藤へ假下ケコナリタル品ハ則同人ヨリ買入レタル而シテ殘
リ半額ノ品者淺部へ御渡シコナリタリ是ニ於テ淺部ナル者モ右半

分ノ品ヲ自分方へ違約ナシテ差戻シ則自分買渡ス品ヲ詐取ルノ訴
 ナリシガリ右ノ如兩名ヨリ不當ノ御訴セシ義聞傳へ扇助ヨリモ
 想像ナリテ警察署へ上訴セシ也
 右願文聞合ストコロ甚ダ不當ノ訴文也其大畧拔書ス文ニ曰ク私
 義木綿商ノ者ニ御座候處去月廿六日午前十一時頃同區南久太郎町
 二丁目二番地全商柴山太十郎ナル者注文先有之趣キ中河内木綿買
 求キ罷越候ニ付直組ノ上即金之約定ヲ以テ賣渡シ即日代呂物持セ
 遣シ候處注文先キヨリ代金請取次第持參可仕候間全廿八日迄相待
 吳レ候様申之ニ付實事ト存シ品物相預ケ立歸同日ニ到リ何等ノ沙
 汰モ不仕候ニ付右太一郎方へ代金受取罷越候處留主中ノ越キ家族
 ノ者ヨリ申開面會不仕其後屢々罷越シ候得共他出而已ニテ漸ク面
 會仕候得者不當ノ義ヲ申答品物モ無之ニ付途方ニ暮レ罷在候中右

品東區北久太郎町三丁目八木榮助ト申同商業方ニテ見當リ候ニ付
 右品出所相尋候處前顯柴山太一郎ニ兼テ貸金有之右返却トシテ同
 人ヨリ買預リ有之越キ相答候就テハ全ク最初ヨリノ手段ヲ以テ代
 呂物取込候義ト云々下畧前顯ノ如ク自分へ渡シ置キタル証書ハ押
 包ニ不當ノ訴ナリ而シテ警察署並ニ檢事局及刑事課ニ至ルマテ勘
 助二人片言ヲ以自分義ハ逃走セシモノト見ナシ一度ノ御呼出シ調
 査モ無ク俄然ト所分セラレタルハ豈ニ疎漏ノ裁判ナラスヤ

第二節

一自分義者六月三日歸宅ナシ即日田中佐七へ金調ノ義ニ付罷越シ
 則右風聞篤ト聞取前約ノ金用意ヲ依頼致シ置キ前顯淺部伊藤扇ナ
 ル三名不當ノ訴ニ及タル御吟味ノ爲メ願書認翌四日早朝ヨリ檢事
 局へ出頭セシ處右願書認メ方不都合ニ付改認スヘシト御指令ニ付

即日認兼ルニヨリ歸宅ナシ尙連日出頭セシ處刻限レ或ハ書類認メ方不都合ニ付引取タリ然ルニ原告ノ内淺部伊藤ノ兩名ヨリ示談ニ罷越全ク名々想像ヨリ不當ノ訴ナシタル段罪謝ナシ則チ該詐取ルノ訴書取消願下ケ可致旨証書ヲ兩名ヨリ差越所談スニ相成リタリ而レハ扇勘助ハ何等ノ沙汰モ不致ニ付尙御吟味ノ願ニ出頭シタル處最早時間限レコ付止ムヲ得ス引取リ然ルニ同月九日刑事課ニテ自分義者逃走ト見ナシ只ノ一度ノ査調モ無ク詐取ルノ者トセラレ不正品ニ付三木八木和田ノ三名ニ追徴ス但シ太一郎ハ當時行衛不知云々宣告セラレタリ然ルニ右三名大阪裁判不服ニ付大阪上等裁判所へ控訴ナス旨檢事局へ御届ニ出頭致シ居タルト自分扇ナル者不當ノ訴吟味願ノ爲メ同局へ出頭セント同所扣所ニテ面會シ始末傳聞ニ右宣告ヲ確然見知セリ而シテ右三名ノ附添人秋山清高ナル

者へ右事件宣告セラレタルト者本人太一郎トハ申聞ス勿レト檢事局法官長谷川殿ヨリ申渡サレタル旨同人ヨリ聞取タリ是レ正ニ六月十日ナリ而ル後同月十二日同局へ拘留ナリシ處自分方へ取置キタル端書ハ有レヒ其方口飾シテ詐取シナラント申サレ斷然自分ノ申分且ツ者証憑物ヲ申立ツルモ採用セラレヌ全ク糞ノ警察及ヒ檢事刑事ノ疎漏ヲ押包ンカ爲ニ係ル曖昧不當壓制セラル、ナラント思認セサルヲ得ス

第三節

一三名 三木八木ノ者大阪裁判不服ニ付大阪上等裁判所へ扣詐ニ及和田ナリノ者如ク判決セラレタリ但シ零扱シテ書記ス各木綿商ニシテ即原告共於テハ公商公買ニヨリ轉帳賣買セシ者ナレハ改定律例第五十一條及ヒ第五十四條明文ニ依リ該品ハ直ニ追徴スルヲ得可ク

サル者ニ付被告申立ハ採用セズ以上 辨明ノ 以下 判決ノ 前條說明セ
シ如キ筋合ナルヲ以被告於テ柴山太一郎ヨリ欺キ取ラレタル河内
木綿七百五拾六疋ハ原告ノ内和田嘉助ヨリ直ニ追徴下ケ付相成度
ト被告申立ハ不相立者也前條ノ如キ判決ナレハ自分ニ於テモ前約
ノ通り正實ノ取引ニテ延期ナシタル滯借ナリ而ルヲ刑事課ニテ岡
本殿右品ハ未タ販賣止メト而已申サレタル也已テ去月九日處分
ナリタルヲ並ニ上等ニテ右ノ如ク判決ナリシハ申聞ケラレス前
顯ノ如キ種々疎漏有之ニ付何卒明カナル公判アラソコ乎

第四節

一 三木治助ヨリ四月廿八日百五拾圓ヲ請取同三十日四拾壹圓八拾
六錢六厘請取タリ而シテ扇勘助半高ニ足ラサルヲ以延期依頼ナシ
ヲキ而シテ辻保治へ同月二十日金百六拾圓ヲ相渡シタリ而ルヲ宣告

ニ百五拾圓直ニ他ノ負債ニ相渡ス云々以則テ事主ハ消却念慮ナ
キモノトセラレタリ而シテ拾圓ト三十日三木ヨリ請取タル金員高
合ハサルト云ヒ豈疎漏ニアラソコ

第五節

一 田中庄七儀四月二十三日頃五百圓貸與フヘキ約ヲ爲シ置キナカ
ラ檢事局コテ六月十日頃百五拾圓貸シ與フ約クハナシタレハ五百
圓ノ約ハナサ、ル旨申立テタル旨申渡サレタルヨリ然ラハ庄七
ニ面會ヲ聽サレ度ク同人ト確ニ約定セシトニテ全ク自分拘留ト成
リタルヨリ不安ニ思ヒ違約セシナラシレ而シテ同人ヨリ自分へ差越
シタル書面中約定ノ節本人自筆ノ書証モ有之ニ付右書面ヲ取リ寄
セノ義ヲ刑事課へ鑑倉掛リタ以願フ、雖モ何等ノ御指令モ無ク斷
然落着セラレタリ

第六節

一六月十八日檢事局コテ拘留中警察本署へ引戻サレ淺部伊藤ノ兩
 事許〔元ノ〕尋問セラレタル處右二件ハ已ニ同月八日九日兩方トモ示
 談濟ニナリタル旨申立テ則チ証書モ有之條上伸スト雖モ同局ノ官
 吏適宜ニ假口供ヲ綴書セラレ捺印致スヘク旨ヲ申聞ラレタルモ自
 分義詐取ル捺印致シカタク旨上伸シタル處然レハ文ヲツクロヒ改
 メタルニ捺印ナスヘキ旨ナレモ尙自分ノ陳ル如クナラサルヲ以
 捺印ヲ拒ミタレモ權然〔元ノ〕トシテ証憑物アラハ裁判所ニテ申立ツ
 ヘシト押シテ申サルニヨリ止ムヲ得ス捺印ナシ而テ檢事局へ手
 續書呈シタレモ自分申分相立ス十月九日頃刑事課ニテ漸ク明了セ
 ルニヨリ詐取セサル旨相立チタリ

第七節

一扇勘助ノ事許〔元ノ〕ナル假口供ニ廿四日廿五日ノ兩日云々ト百圓
 受取ラサルニ依リ百五拾圓云々ト認メ替無クテハ捺印致シ難ク旨
 申立テ置キタレモ尙外ニ數條有之而ルニ依リ檢事局ニテ申立テタ
 レモ兎角採用ナカリシナリ尙又自分義亥ノ十二月出生ニシテ當二
 十九才即チ拘留ナリタル節ハ六月十二日ニシテ廿七年七ヶ月ナラ
 シ廿七年八ヶ月トアリ是レモ一ヶ月ノ相違ナラシカ年月位イコ
 至リテハ一身ニ係ル義ト云フニ有ラサレモ相違スルヲ以テ調査チ
 請フントス

右ノ如ク追告スルモ徒ラニ官ヲ煩ハスニアラス顯然疎漏ノ條々
 アルニヨリ單ニ至當公明ノ判審ヲ受ケントス何卒憐察アラセテ
 允當ノ御所置セラレシテ奉仰幸候也

明治十三年一月二十二日再ヒ左ノ明細書ヲ差出シタリ

自分儀明治十二年十月廿七日於大阪裁判所詐欺取財律ニヨリ懲役十年申付ラレタレハ不服ニ付同十一月六日明細書ヲ以テ上告ニ及ヒ同十一月廿五日付テ以テ遺漏ノ廉追告書奉呈スル處尙漏忘ノ條々再ヒ追加差出シ候間何卒至當ソ御審判アラセラシメテ伏テ奉願上候ナリ

第一項

本訴係ル趣意屢々ナリト雖モ愚文行盡シカタク其大畧記載シテ以テ追願ニ供スルコト左ニ大阪上等裁判所裁決書寫

裁決書

大阪府東區南久太郎町

二丁目四十六番地平民商

商

原告 三木治助

同府同區北久太郎町三

丁目五番地平民商

同 八木榮助

同府同區同町三十番地

平民商

同 和田嘉助

刑事追徴處分不服ノ控訴

同府同區南久太郎町一

丁目三十五番地平民商

同 助

原告控訴ノ要領

本訴ノ起因ハ明治十二年四月廿六日原告ノ内三木治助ニ於南久太郎町二丁目木綿商柴山太一郎ヨリ河内木綿七百五十六疋ヲ甲第一號証ノ如ク代價五百三拾貳圓九拾八錢ニテ買取リ同日該品ヲ乙第二號証ノ如ク代價五百三拾貳圓九拾八錢ニテ北久太郎町三丁目八木榮助一名ノニ賣渡シ而シテ其翌二十七日該品七百五拾五疋ヲ丙第一號証ノ如ク代價五百五拾壹圓五拾八錢ヲ以テ同町和田嘉助一名ノニ賣渡シ該品ハ當時嘉助方ニ現在セリ然ルニ該品ハ曩ニ柴山太一郎ニ於テ被告即チ同町一丁目扇勘助ヨリ買取リ約定通代金不拂ルニヨリ勘助於テハ該品太一郎ニ欺キ取ラレタル旨府下久寶寺町警察署ニ告訴及ヒタルニ付同署於テハ速ニ太一郎ヲ召喚セラレタレト當時其行衛ヲ失ヒ所在明ナラサリシナリ然ル處明治十二年六月九日原告共三名突然大阪裁判所ヘ

呼出サレ原告共三名カ轉帳賣買シテ當時原告ノ内八木榮助并ニ和田嘉助方ニテ現在スル河内木綿七百五拾六疋ハ太一郎於テ勘助ヨリ欺キ取タル不正品ニ付取上ル旨申渡サレタレト原告共於テハ承服シ難シ其故ハ太一郎儀ハ現今檢事局ノ審問中ニ係ルト雖モ未ダ裁判所ノ公判ヲ經サル者ナレハ勘助カ告訴ノ如ク該品ハ果シテ太一郎カ詐取セシヤ否ヤ分明ナラサレハナリ前顯陳述セシ如キ筋合ナルヲ以テ更ニ至當ノ覆審ヲ仰キ且訴訟入費ハ被告ニ對シ請求スル旨申立タリ

被告答辨ノ要領

被告ハ木綿商ニ有之處明治十二年四月廿三日柴山太一郎ナル者被告方ニ罷越河内木綿買入度ク望ノ者有之ニ付被告所持ノ該品一見致シ度且買入人ノ都合モアルニヨリ該品預リ度旨申出ルニ

付被告ハ之レヲ承諾シ木綿一疋ニ付代價七拾四錢五厘替ノ約定
 ニテ四月廿三日ト廿六日ト兩度ニ都合河内木綿七百五十六疋預
 ケ置更ニ太一郎ノ依頼ニヨリ一疋ニ付三厘宛引下ケ此代價總計
 金五百六拾圓九拾五錢貳厘ト取極メ原告甲第六號証ノ如ク四月
 二十八日五月五日ト兩度ニ代金悉皆可受取約定ノ處太一郎ニ於
 テハ已ニ該品ハ他ニ轉賣セシ上約定通り代價拂渡サ、ルノミナ
 ラス其行衛モ相分ラサルニヨリ不得止明治十二年五月十八日原
 告甲第二號証ノ如ク南久寶寺町警察所ニ該品取込ノ届ニ及ヒ置
 タル處明治十二年六月九日大阪裁判署ニ召喚セラレ被告カ曩キ
 ニ太一郎ヨリ欺キ取ラレタル河内木綿七百五拾六疋ハ太一郎於
 テ轉賣ノ末原告ノ内和田嘉助方ニ現在スルニ付取上ケ下ケ渡ス
 旨宣告セラレ原告共三名ニ於テモ原告控訴狀記載ノ如ク申渡サ

受タル處原告於テハ今回控訴及ヒ該品追徴ヲ拒ムト雖モ原告共
 ニ於テハ固ヨリ公然タル木綿商ニ相違無キモ該品ノ出所ヲ取糺
 サスシテ容易ニ太一郎ヨリ買取リタルハ原告ノ疎漏ナルニ付被
 告於テハ大阪裁判所申渡ノ如ク該品ハ原告ノ内和田嘉助ヨリ直
 ニ追徴下付相成度且訴訟入費ハ原告共ニ係リ請求スル旨申立タ
 リ

辨明

被告ニ於テ現今原告方ニ現在スル河内木綿七百五十六疋ハ曩キ
 ニ被告カ柴山太一郎ヨリ欺キ取ラレタル不正品ナレハ假令ヒ原
 告共ニ於テハ各木綿商ニシテ則公商公買ニ依リ取引爲シタルニ
 相違無之ニモセヨ該品ノ出所ヲモ取糺サス容易ニ之レヲ買取リ
 タルハ原告共ノ疎漏ナルニ付大坂裁判所申渡ノ如ク該品ハ原告

ノ内和田嘉助ヨリ直ニ追徴下付相成度申立ルト雖モ原告甲第六
 號証ヲ被告ヨリ柴山太一郎へ渡シ置タルノミナラス太一郎ハ未
 タ公判ヲ經サルモノナレハ果シテ太一郎カ詐取セシモノナルヤ
 否ヤハ分明ナラサルモノトス假令ヒ太一郎於テ詐取セシモノナ
 リトスルモ太一郎及ヒ原告共三名ハ原告第一印乃至第三印ノ如
 シ是ヨリ以下前ニ追告書ニ拔各木綿商ニシテ則原告共於テハ公
 商公買ニヨリ轉販賣買セシ者ナレハ改定律例第五十一條及ヒ第
 五十四條ノ明文ニ依リ該品ハ直ニ追徴スルヲ得可ラサル者ニ
 付被告申立ハ採用セス

判決

前條説明セシ如キ筋合ナルヲ以テ被告於テ柴山太一郎ヨリ欺キ
 取ラレタル河内木綿七百五十六疋ハ原告ノ内和田嘉助ヨリ直ニ

追徴下付相成度トノ被告申立ハ不相立者也

但シ訴訟入費ハ成規ノ如ク被告人ヨリ償却ス可シ

明治十二年十月三日

大坂上野裁判所印

右略書シテ呈スル如クノ理由ニテ全ク大阪裁判所申渡シハ不當壓
 制ノ所爲ト云ハサルヲ得サルナリ而テ勘助カ久寶寺町警察署及大
 阪裁判所へ上訴ナスニ實ヲ以テセサルト明瞭タリ其証奈何トナレ
 ハ曩キヨ警察署へ上訴ノ文意ニ四月廿六日云々ト認メタルノミナ
 ラス即金云々及ヒ預ケ置クノ文大イニ反對スルヲ以テナリ且ツ延
 期爲ス爲サ、ルニ至リテモ此ヲ以御明察ヲ仰キ奉ルナリ

第二項

辻保治ナル者ニ相渡シタル金員合サルヲ以先般追告書中ニ記載ナ
 シ置キタレト証書寫シテ此度此ニ記載シテ以テ左ニ奉呈ス
 追告願
 書中ノ

第四節文
中ニ記ス

証

割印

一金百六拾圓也

右之通正ニ請取申上候也

明治十二年四月三十日

保治印形

柴山太一郎様

但シ半切紙ニテ本人自筆

右ノ如クニ金高ノ相違モ有之付何卒明細御調査ヲ奉請所ナリ且該
金ヲ相渡タルハ負債ノ爲メニ渡シタル者ニシテ則チ事主へ返却ノ
念慮ナキモノト信認ス云々ト有之トモ全ク右ハ田中ノ約定金五百
五拾圓有之ハナリ而リト雖モ庄七ニ於テハ明治十二年六月十日頃

金百五拾圓ノ約ハナシタレトモ金五百圓ノ約ハ爲サ、ル旨申立テ
タル由シナレモ左ニ記スルカ如ク本人自筆ノ書狀モ有之上ハ定メ
テ同人ノ書記ノ檢事局へ呈シ誤認ナラシカ假令ヒ庄七ナル者金百
五拾圓ノ約ヨリナサ、ル旨申立ルトモ則他ニ渡シタルハ百六拾圓
ニシテ田中ノ約定スルト申立ル金高對スヘシ然ルニ三木治助ナル
者違約スルニヨリ事ニ至リシ者ナリ然リト雖モ屬勘助カ延期
承諾ナシタルハ則三木ノ延期モセシモノナリ然ルヲ該約定ハ無實
ノ者トセラレナハ則チ三木治助ニモ罪アル者ニシテ三木治助モ詐
欺タルヘシ而リト雖モ各約定ヲトケテ相互ニ示談ナシタル証有ル
ニ於テヤ

第三項

右第二項ニ記ス如ク田中庄七ナル者ノ約定金ニ至ルモ則チ本人自

筆ノ書面モ有之上ハ若シ庄七ノ上伸書ヲ誤認セシヤ亦タ今更違約
セシヲ押包マントセシ者カ我等ニ於テハ未タ不知ナリ然レトモ該
書面有之ニ於テヲヤ則チ寫左ニ

文略眞平御免被下度然者昨日ハ御尊來被下候處何ノ風情モ無之
御用捨可被下候扱而其節御約定ノ通り金五百五拾圓ハ儘ニ用意
仕置キ可申候乍併今度ハ利子壹八ニ御直シ被下度奉願上候先ハ
右約定御請迄テ如此ニ御座候以上

四月廿三日

柴山太一郎様

田中庄七

右之如ク書狀差送有之ニ付右田中庄七義今ニ應御調査アラセラレ
度候ナリ附テハ先般上告明細書第三條ニ記載スル如キノ理由ニテ
則該品ハ洋糸製ニシテ我カ皇國ノ^(元ノ)ニテ製シタル物品ト違ヒ

日々刻々ニ價ヘノ高下モ有之況ンヤ該木綿反數ニ直ス時ハ壹千五
百拾貳反ニテ曩キノ損金貳拾七圓九拾七錢ト宣告面有レモ木綿壹
疋ニ付壹疋ハ二反七拾錢五厘替ノ内壹厘引ニテ即チ壹疋ニ付七拾
錢四厘替ナリ而レハ全損金ハ貳拾八圓七拾貳錢八厘ナリ而テ是ヲ
七百五拾六疋割ル時ハ壹疋ニ付三錢八厘ニシテ則壹反ニ付壹錢九
厘ノ損耗ナリ此ノ如キ理由ニテ僅ナルトニシ即チ商法上ニハ問々
有之義ナリ況ヤ海外舶來ノ品物ニ於テヲヤ且又宣告面ニ大イニ反
對スル廉有之ニ付再ヒ右ノ如ク追告奉ル處ナリ

猶他管ヘ金策ニ罷越セシヲ金策ヲ名トシテ擅出云々ト金貳拾七圓
九拾錢余ノ損耗云々治助賣却シタルハ全ク治助ニ係ル負債ノ爲ニ
渡シタルモノト認メサルヲ得ス云々辻保治ニ相渡云々田中ノ事件
等ハ必竟法官ノ想像適宜ヲ以壓制セラレタルモノト思想セサルヲ

得ス且詐欺セントノ念慮アラハ他管迄モ發足シテ金策ハナサ、ル
 ナリ況ヤ淺部伊藤ノ兩件ニ於テモ夫々證據物有之ニ於テヤ、
 此後再度ノ追申ハ淺部和七郎及伊藤定次郎ニ係ル件ニシテ本件
 ニ關係ナク且ツ本件ニ關スル項アルモ到底前上告ノ旨趣ヲ普延
 スルニ過キサルヲ以テ之ヲ省ク
 大坂裁判所ニ於テ被告柴山太一郎ノ所爲ヲ以テ詐欺取財ノ罪アリ
 ト斷定シタルハ明治十二年四月廿六日被告カ扇勘助ヨリ河内木綿
 七百五拾六疋ヲ代價五百六拾圓九拾五錢貳厘ト定メ右代價ノ半額
 ナ同月廿八日殘シ半額ヲ五月五日ノ兩度ニ拂フ可キ契約ニテ買取リ
 之ヲ其即日三木治助ニ貳拾七圓九拾錢余ノ損失ヲ願ニスシテ賣却
 シ其代價ヲ舊債ト相殺シタルト治助ヨリ百余圓ヲ受取り勘助ニ内

金百圓ヲ拂ヒ入レシト云ヒシニ勘助約束ノ數ニ充タサルヲ以テ受
 取ラサルシヨリ之ヲ以テ辻安治ニ對シ前債ヲ償却シ置キ金策ト稱
 へ勘助ニ告ケスシテ他管ニ發足シ且ツ勘助ニ償還スヘキ金額ヲ被
 告ニ貸與スヘキ契約ヲ爲セシ者無キトニ在リ然ルニ被告於テハ勘
 助ヨリ受取タル賣端書ニ四月廿六日ト記シアルモ賣買ノ約束ハ其
 實廿四日ニ成立チ又該木綿ハ其初メ辻安治ニ賣渡スヘキ目的相違
 セシヨリ三木治助ニ廿七圓余ノ損失ヲ願ニスシテ賣渡シ其代價ハ
 勘助ニ返償スル兩度ノ期限ニ全額ヲ受取ル可キ約束ノ處治助約ニ
 背キ舊債ヲ差引百五拾圓ヲ渡セシヨリ勘助ニ内金百圓ヲ拂入レ
 ソト云ヒシニ同人承諾セサルヨリ該金ヲ以テ辻安治ニ對シ舊債ヲ
 償却シ勘助トハ五月十日迄ノ延期ヲ約シ其後更ニ五月十六日迄ノ
 延期ヲモ約シタリト述ブレト三木治助ノ陳述稱被告ノ供述ニ符合

大ルノ外安治ノ木綿ヲ買取ント約セシメ及廿四日ニ勘助ト賣買契
 約ヲ果セシメ等ハ其証ノ據ルヘキモノナク又勘助ト再度延期ヲ約
 セシメ下云フニ至テハ勘助於テ承認セス且ツ其証左モナキ上ハ勘助
 ニ對シ代金返償ノ義務ニ背キタルハ判然ナリト雖モ勘助ヨリ被告
 ニ渡シタル賣端書左ノ如ク
 一河内半唐白 七百五拾六疋也
 二七拾四貳替
 代金五百六拾圓九拾五錢貳厘
 但、本月廿八日半方御渡シ
 五月五日 半方同
 右之通御座候以上

明治十二年

四月二十六日

柴山太一郎殿

扇

勘

助印

右ノ端書ハ三木治助八木榮助等ニ於テモ該賣端書ノミニテ賣買ヲ
 爲スハ從來商人ノ習慣ナル旨ヲ述ヘ又勘助ノ手續書中ニ廿六日ニ
 至リ彌々賣買取極メ中即金可請取積リニテ賣渡シ候處中右代金ノ
 半金ハ明後廿八日殘ル半金ハ五月五日兩度ニ可請取荒方見込ヲ以
 相待異度旨申候ニ付中不得止任其意云々トアル等ヲ以テ觀レハ四
 月廿六日ニハ賣買ノ契約全ク成立テ勘助ヨリ被告ニ所有ノ權ヲ移
 シタルコト判然ナリ已ニ所有ノ權被告ニ屬セシ以上ハ被告ノ都合ニ
 ヲリ損失ヲ願ミスシテ之ヲ他ヘ賣ルモ又之ヲ負債ノ償還ニ充ルモ
 被告ノ權内ニ在ルモノナレハ其所爲ヲ以テ舊ノ所有者タリシ勘助

ノ物件ヲ詐取シタル者ト爲スヲ得サル者トス又被告於テ勘助ト延
 期ヲ約セス且ツ勘助ニ告ケスシテ他管ヘ發足シタルモノトスルモ
 被告ノ歸阪後但馬國豊岡ノ谷岡友平ヨリ被告ヘ宛タル書狀中ニ嚮
 白ハ遠隔ノ地無御厭懇情ヲ以テ御越被成下_中其際金談ノ義承暨ヒ
 候得共云々未タ調金難致云々等ノ文アルヲ以テ觀レハ被告ノ述フ
 カ如ク金策ノ爲メ友平方ヘ往キタルモノナルヘク而シテ其金策成
 ラズシテ歸阪スルヤ勘助ヨリ告訴セラレタリト聞キ自ラ檢事局ヘ
 告訴不當ノ旨ヲ申出テシテ觀レハ必シモ其跡ヲ隱匿セシモノト云
 ヒ難シ又被告於テハ田中庄吉ヨリ五百圓余借受タル約束ヲ爲シタ
 リト云ヒ庄吉於テハ百五拾圓位ハ用達ス可シト云ヒタル等ノ爭ハ証
 左ナキヲ以テ被告ノ申分立サルモノトスルモ要スルニ勘助ト被告
 ノ間ニ於テ已ニ賣買ノ契約ヲ果了シタル以上ハ仮令被告金償ノ目

的立サルモ之ヲ以テ詐欺取財ノ所爲アリト爲スヲ得サルモノトス
 仍テ大坂裁判所ニ於テ柴山太一郎ニ詐欺取財律ニ依リ竊盜ニ准シ
 テ論シ懲役十年申付タルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年十月二十七日大坂裁判所ニ於テ柴山
 太一郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

柴山太一郎

右ハ前ニ辨明スル如ク扇勘助ヨリ買取ル木綿ノ代價ヲ返償セサル
 モ刑法ニ觸ル、所ナキニ因リ
 無罪

第四百八十三號

○判文懲役人再逃ノ件明治十三年七月二十一日上告
 明治十三年八月三十一日判決

大分縣豊後國北海部郡

久原村平民伊東末松從

弟

伊東廣吉

明治十三年四月二十八日

右廣吉カ明治十三年四月二十二日熊本裁判所ニ於テ審問ヲ受ケント
キノ口供左ノ如シ

一前科ノ儀ハ熊本縣山鹿警察署ニ於テ申立候通ニ相違無之候事
一自分儀明治十年八月六日詐欺取財ノ科ニヨリ長崎裁判所福岡支
廳ニ於テ懲役二年ニ處セラレ服役中逃走シタル科及右取調中越獄
逃走シタル科ニヨリ明治十一年九月三日大審院ノ裁決ニテ本罪ニ
二等ヲ加ヘ懲獄日數ヲ除去シ剩ル懲役二年ト二百十四日ノ刑ヲ久

留米區裁判所ニ於テ申渡シ服役中明治十二年四月廿二日尙又破獄
逃走シ熊本縣下山本郡田底村池田直藏ナル者ヲ欺キ癩病ヲ治療致
シ遺ストテ都合金拾壹圓ヲ詐取シ尙殘リ金拾六圓四拾六錢ハ借用
証書トナシ受取置タル旨明治十三年四月三日熊本縣山鹿警察署ニ
於テ供出シ同七日拇印ノ節ニ到リ右金ハ全ク廿六日請取濟ノ上更
ニ拾六圓四拾六錢ヲ貸渡タルト申立拇印致シ置又明治十三年四月
十六日熊本縣警部面前ニ於テモ右金貳拾六圓ハ藥價トシテ受領致
シタル旨申立候通リニテ全ク藥代トシテ金貳拾六圓請取跡ニテ拾
六圓四拾六錢ヲ貸渡シタルニ相違無之候以上

明治十三年七月十三日熊本裁判所ニ於テ伊東廣吉ニ左ノ裁判ヲ言渡
シタリ

其方儀懲役場ヲ逃走シ外ニ在テ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル一件審問

ヲ遂ケ裁判スル左ノ如ク
 共方ニ於テ明治十年八月六日詐欺取財ノ科ニヨリ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ懲役二年ニ處セラレ服役中逃走シタルヲ取調中尙ホ越獄逃走シタル科ニヨリ久留米區裁判所ニ於テ棒鎖二日ノ上新ニ懲役二年ニ處セラレタル處福岡縣警部ノ上告ニ依リ明治十一年九月三日大審院ノ裁決ニテ原裁判ヲ平翻シ本罪ニ二等ヲ加ヘ棒鎖二日ノ上懲役三年ノ處滯獄日數ヲ除去シ剩ル懲役二年ト二百十四日ニ處セラル旨久留米區裁判所ニ於テ申渡ヲ受ケ當時服役中尙又明治十二年四月廿二日懲役場ヲ逃走シ熊本縣下山本郡田底村ニ至リ池田直藏ヲ欺キ癩病ヲ治療致シ遣ストテ所持ノ散藥ヲ與ヘ該藥ハ朝廷ヨリ御拂下ケニ係ルヲ以テ代價貳拾五圓手數料壹圓ヲ上納スヘ
 申聞ケ内金拾壹圓ヲ受領シ殘金拾六圓四拾六錢借用証券ト爲

受取タル旨明治十三年四月三日熊本縣山鹿警察署ニ於テ申立而シテ前供ヲ翻異シ右金圓ハ詐取スルノ意ニアラス全ク藥價トシテ貳拾六圓請取濟ノ上更ニ拾六圓余ヲ貸渡シタルニ相違無之旨申立ルニ依リ之カ事實ヲ推究スルニ其方カ明治十三年四月三日山鹿警察署ニ於テ爲シタル供狀ハ池田直藏ノ始末書ト對照シ符合スルニ依リ明治十三年四月三日ニ爲シタル供狀ハ眞實ノ白狀ヲ爲スモノトシ其方カ現ニ受取タル金拾壹圓ハ今更詐取シタルモノニ非ラスト申立ハ相立ヌ且其方カ髮ヲ懲役場ヲ脱逃シ及越獄逃走シタル科ニヨリ懲役二年ト二百十四日ノ申渡ヲ受ケ當時服役中尙又逃走シタルハ福岡縣當該官ノ檢視書及上申書并ニ久留米區裁判所宣告書等ニ對照シ符合スルニ依リ右ノ行爲ヲ執テ之ヲ法律ニ照スニ抑其方カ懲役場ヲ逃走シ外ニ在テ金拾壹圓ヲ詐取シタルハ賊盜律詐

欺取財條ニ照シ竊盜ニ準テ論シ賍金拾圓以上懲役七十日仍ホ改
定律例第三百條ニ照シ原犯年限ニ合セ新ニ拘役スヘキ處其懲役場
ヲ逃走スルヤ再逃ニ係ルヲ以テ改定律例第二百九十八條ニ照シ懲
役終身申付ル

伊藤廣吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月二十一日
大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

明治十年八月六日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ詐欺取財ノ件ニ依リ
懲役二年ニ處セラレシハ冤罪ニ係ルヲ以テ懲役人ノ再ヒ逃走スル
モノトシ懲役終身ト言渡サレタル裁判ニ服セス

辨明

上告人伊東廣吉カ明治十年八月六日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ詐
欺取財條ニ依リ懲役二年ニ處セラレタルハ冤罪ニ係ルノ証左ナク

シテ右限内逃走シ罪ヲ犯シ尙ホ囚禁中越獄セシヲ以テ明治十二年
九月三日大審院ニ於テ警部ノ上告ニ依リ久留米裁判所ノ裁判ヲ平
翻シ更ニ棒鎖二日ノ上懲役三年ニ處シタル裁判ト共ニ既ニ確定シ
限内又逃走セシハ即チ懲役一年以上ノ囚外再ヒ逃走スルモノナル
ニ依リ熊本裁判所ニ於テ改定律例第二百九十八條ニ照シ懲役終身
ニ言渡シタルハ本法ノ裁判ニアラストス

右ノ理由ナルヲ以テ熊本裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ
上告狀却下スルモ以テナリ
第四百八十四號

○判文無届出稼ノ件明治十三年七月七日上告
明治十三年八月三十一日判決
愛媛縣伊豫國新居郡大

町村平民山内芳助第八

山内政吉

明治十三年一月
二十五年十一月

右政吉於明治十三年一月一日愛媛縣西條警察署へ差出シタル始末書
左ノ如シ

明治十二年二月廿六日無届ニテ大阪府下へ立越シ今般復歸候始末
御尋ニ付左ニ申上候

右ハ私義平素病躰ニシテ永々醫藥ヲ服シ且養生ヲ相加候ニテモ平
愈難相成殊ニ内間貧困ノ餘リ母兄ヨリ藥價償出致シ吳ノ候情實ヲ
坐視スルニ難堪折柄明治十二年二月廿六日無届ニテ家出致シ大坂
府下唐物町三丁目拾八番屋敷商平民小泉藤七郎方へ罷越シ同人店
手代ニ雇シ滞在申其給金ヲ以テ最寄リ醫師ニ治療ヲ受ケ然ル處左

耳聾症ヲ病ニ種々病ニ罹リ難澁シ餘リ竟ニ主人藤七郎ノ要用ニ難
辨ニ立至リ不得止明治十二年十一月廿二日歸籍仕其旨同年十二月
廿四日手續書ヲ以テ戶長役場へ差出シ置候前條不容易所業仕候段
奉恐入候

右ノ始末書ニ依リ明治十三年七月六日松山裁判所管内西條區裁判ニ
ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタル
其方儀明治十二年二月二十六日無届ニテ出稼シタルハ罪ノ問ラズ
キ無シ

愛媛縣七等警部横山政輔ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月
七日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事官以明
治十三年八月四日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

山内政吉

出 二十六年六月

右ノ者本年七月六日松山裁判所管内西條區裁判所ニ於テ別紙宣告書ノ通處斷相成候處明治十年太政官第七拾六號ヲ以テ逃亡律例廢止ノ義公布有之候得、モ明治四年四月太政官ヨリ府藩縣ニ戶籍法御達ニ管内ニ普ク布告致スヘキ明文有之上、同第五則中出生死去出入等ハ其時々戶長ニ届出ヘキ旨明文ニ依リ無届他出スルニ違式罪ノ者ニ付該審判ハ不當ト見込候條破毀之上更ニ至當ノ判決相成度此段上告仕候也、
 大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

明治四年四月四日公布戶籍法第五則ニ編製ハ爾後六ケ年月ヲ以テ改ムヘシト雖其間ノ出生死去出入等ハ必ズ其時々戶長ニ届ケ戶長之ヲ其應ニ届ケ出云々、
 出生死去或ハ婚姻離婚等其戶籍人

員ノ出入増減ヲ届出ヘキ義ニテ旅行ハ出邑歸宅ヲ届出ヘキ文詞ナリト解釋スルヲ得ス左スレハ逃亡條例ヲ廢シ官廳ニ陳告セスシテ私擅ニ他管ニ出テ五日ヲ過ル者ヲ處斷スル法律ニレナキ以上ハ山内政吉カ明治十二年三月二十六日無届ニテ家出シ他管ニ在テ數月ヲ經過シ歸宅ノ上明治十二年十二月二十四日手續書ヲ差出シタル所爲ハ刑法ニ於テ問フ可キノ罪ナキモノトス故ニ松山裁判所管内西條區裁判所ニ於テ政吉ニ無届ニ出稼タルハ罪ノ問フヘキ無シト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十三年七月六日松山裁判所管内西條區裁判所ニ於テ山内政吉ニ申渡シタル裁判破毀ス可キ理由ナシトス

第四百八十五號

〇判文無届旅行ノ件 明治十三年七月十日 上告 明治十三年八月三十一日 判決

愛知縣尾張國名古屋區 南園町士族 野崎 鑑三郎

明治十三年七月 十二年九月

右鑑三郎カ明治十三年七月一日名古屋裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ
自分儀明治十二年五月二十五日無届ニテ旅行シ未明治十三年二月中歸宅致候處家出届相成居旨承リ右ハ不都合ノ義ト存歸宅ノ旨其筋ニ申出置タル始末名古屋警察署ニ於テ申立タル通聊カ相違無之候事
右ノ口供ニ依リ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ

申渡シタリ
其方儀愛知縣布達ニ違背シ明治十二年五月二十五日無届ニテ旅行致シタル科明治十年第十三號公布ニ依リ罰金貳拾五錢ノ處自首スルニ付其罪ヲ免候事

愛知縣六等警部高島正載ハ明治十三年七月十日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ明治十三年八月四日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
抑本犯ハ明治四年四月公布戶籍法則第十四則及ヒ同年七月二十三日寄留並ニ旅行スルモノ届方云々公布但書ニ違犯シ明治十二年五月中無届旅行シタル者ニ付律例第三百八十八條ニ照シ違式輕ニ問ヒ懲役二十日幼者ナルヲ以テ叙續スルキ處明治十三年二月十八日復歸自首スルヲ以テ其罪ヲ免スルキニ名古屋裁判所ニ於テハ愛

知縣布達ニ違背シ明治十二年五月三十五日無届シテ旅行致タル科
 明治十年第十三號公布ニ依テ罰金貳拾五錢ニ處自首スルニ付其罪
 ヲ免ス旨宣告セリ然ルニ本縣於テ未ダ曾テ無届旅行相成ラサル
 旨ヲ條規ヲ布達セシコトナシ願フニ別紙丙號ヲ如ク明治十一年本縣
 甲第八號ヲ以テ諭達ヲ爲シタルコトアリ或ハ之ヲ以テ條規ナリト誤
 認シタルナランカ然レモ右諭達ノコトタル義ニ丁號ノ如ク同裁判所
 以テ條規ヲ見徹ス可キ理アラザヤ之ヲ全ク不當ノ裁判ナリト思考
 スニ
 大審院ニ於テ辨明スル左ク如シ
 野崎鑑三郎カ明治十二年五月中無届シテ他管下ニ蘊出シ明治十三
 年三月十八日復歸自首シタルハ明治四年四月四日布吉戶籍法第十

四則及ヒ同年七月二十二日布告但書ニ依テ科罰スヘキモノニアラ
 ストス何トナレハ戶籍法第十四則ハ旅行スル者ハ管廳ノ鑑札ヲ所
 持スヘキ法ニシテ右ハ七月二十二日ノ布告ヲ以テ取消サレ且該布
 告ノ但書ニ奇留并ニ出入届方寄留表取調等都テ規則ノ通可相心得
 事トアルハ即チ戶籍法第五則ニ編製ハ爾後六ヶ年目ヲ以テ改ムヘ
 シト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必ス其時々戶長ニ届ケ戶長之ヲ
 其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ニ加除シ毎年十一月中
 戶籍表ヲ改メ十二月中太政官ニ差出スヘシトアリ右出生死去出入
 トハ出生死去又ハ婚姻離縁等戶籍上ノ出入増減ヲ云フコトヲ旅行
 ノ出立歸宅ヲ届出ヘキ義ニハアラストス
 然リ而シテ愛知縣警部高島正載ニ於テハ明治十一年同縣甲第八號
 達ハ諭達ニシテ條規ニ無之ト申立レモ該達文ヲ閱スルニ左ノ如シ

士族平民トモ一時商業又ハ祈願等ニテ他管下へ旅行スル者其時々々可届出處中ニハ私擅ニ他管下へ出ル者有之哉ニ相聞へ不都合ノ次第ニ候條以後右様ノ儀無之様可致此旨布達候事

右ニ據レハ其文意論達ニアラヌ即チ布達候事トアリテ其縣ノ條規タルコ分明トス

故ニ名古屋裁判所ニ於テ明治十年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ虚復歸自首スルヲ以テ免罪ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラスト

ス

判決
右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ野崎錦三郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第四百八十六號

○判文(無届旅行ノ件)明治十三年七月十日上告
明治十三年八月三十一日判決

愛知縣尾張國東春日井

郡瀬戸村平民

加藤鎮三郎

明治十三年七月十八年一ヶ月

右鎮三郎カ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

自分儀明治十二年六月十八日無届ニテ旅行セシ始末ハ總テ名古屋警察署へ差出シタル始末書之通ニ有之候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十二年六月中縣廳へ布達ニ違背シ無届旅行スル科明治

十年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ處自首スルヲ以テ其罪ヲ免候事

愛知縣六等警部高島正載ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十日司法省へ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年八月七日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑モ本犯ハ明治四年四月公布戶籍法則第十四則及ヒ同年七月二十二日寄留並ニ旅行スルモノ届方云々公布但書ニ違犯シ明治十二年六月中無届旅行シタルモノニ付律例第二百八十八條ニ照シ違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス可キ處明治十三年三月十日復歸自首スルヲ以テ其罪ヲ免ス可キコ名古屋裁判所ニ於テハ縣廳ノ布達ニ違背シ無届旅行スル科明治十年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ處自首スルヲ以テ其罪ヲ免ス旨宣告セリ然ルニ本縣ニ於テ未ダ曾テ無届旅行相成ナ

ラサル旨ノ條規ヲ布達セシ事ナシ顧フニ別紙丙号ノ如ク明治十一年本縣甲第八號ヲ以テ諭達ヲ爲シタル事アリ或ハ之ヲ以テ條規ナリト誤認シタルナランカ然レトモ右諭達ノ事タル彙キニ丁號ノ如ク同裁判所ヨリノ照會ニ依リ戊號ノ通り回答シアルアリ豈ニ之ヲ以テ條規ト見做ス可キ理アラシヤ之レ全ク不當ノ裁判ナリト思考ス大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

加藤鎮三郎カ明治十二年六月中無届ニテ他管下ニ擅出シ明治十三年三月中復歸自首シタルハ明治四年四月四日布告戶籍法第十四則及ヒ同年七月二十二日布告但書ニ依テ科罰スヘキモノニアラストナ何トナレハ戶籍法第十四則旅行スル者ハ管廳ノ鑑札ヲ所持スヘキ法ニシテ右ハ七月二十二日ノ布告ヲ以テ取消サレ且該布告ノ但書ニ寄留並ニ出入届方寄留表取調等都ヲ規則ノ通可相心得事トアル

ハ即チ戶籍法第五則ニ編製ハ爾後六ヶ年目夫以改メヘシト雖其間ノ出生ト死去出入等ハ必ス其時々戶長ニ届ケ戶長之ヲ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戶籍表ヲ改メ十二月中大政官ヘ差出スヘシトアリ右出生死去出入トハ出生死去又ハ婚姻離縁等戶籍上ノ出入増減ヲ云フニテ旅行ノ出邑歸宅ヲ届出ヘキ義ニハアラストス

明治十一年同縣甲第八號達ヲ閱スルニ左ノ如シ

士族平民トモ一時商業又ハ祈願等ニテ他管下ヘ旅行スル者其時々可届出處中ニハ私擅ニ他管下ヘ出ル者有之哉ニ相聞ヘ不都合ノ次第ニ候條以後右様ノ儀無之様可致此旨布達候事トアリテ其縣ノ條規有ニ據レハ其文意諭達ニアラス即チ布達候事トアリテ其縣ノ條規タル事分明トス

故ニ名古屋裁判所ニ於テ明治十年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ處自首スルヲ以免罪ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ加藤敏三郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第四百八十七號

○判文竊盜放火ノ件明治十三年七月廿一日上告
明治十三年八月三十一日判決

山形縣羽前國西村山郡

岩木村平民

大場忠次

明治十三年七月
三十七年五月

右忠次カ明治十三年七月十三日福島裁判所山形支廳ニ於テ審問ヲ受

ケ陳述シタル口供左ノ如シ
 自分儀兼テ貧窮ナルヨリ不圖盜心ヲ生シ明治十年七月二日午後第
 十一時頃中野彌五兵衛方物置小屋ニ積ミ置キアル藁ノ内ヨリ五束
 竊取致シ其所爲ノ發覺セシトテ恐レ右小屋ヲ燒キ拂〜ハ自然發覺
 致ス間敷ト存シ即夜自宅ヨリ炭火ヲ持出シ右積置キアル藁ノ中へ
 投ケ入レ歸宅セシ處間モナク燃上リ途ニ右小屋壹棟燒失致候尤右
 小屋ハ間口四間奥行二間三尺ニシテ四方壁作りニ有之彌五兵衛居
 宅ヨリハ七間程相離レ藁積入レ有之候右竊取シタル藁五束ハ追々
 草鞋ヲ作り氏名知レサル者へ賣拂ヒ其代金ハ悉皆飲食料ニ費用致
 候事

明治十二年二月二十七日午前第二時頃大場和藏方物置小屋ニ積置
 キアル藁ノ内ヨリ三束竊取致シ候處此際途上ニ雪カ積リ居リ自分

ノ足跡カ右小屋ノ近邊ニ付キタルヨリ其爲メ右所爲ノ發覺セシ
 トテ恐レ和藏居宅裏ノ屋根下ニアル小便所へ火ヲ放テハ右小屋ノ
 後ナル水田ヨリ消防人カ水ヲ運ヒ夫レカ爲メ自分ノ足跡カ消〜失
 セヘクト存シ右小便所松葉ヲ以テ圍ヒタル處ニ火ヲ放テ候得共消
 止ラレ燒燬ニハ至ラズ候尤右小便所ハ和藏居宅外ニ別ニ取設ケア
 ル者ニハ無之其居宅ノ裏屋根ノ下ニ松葉ヲ以テ圍ヒ居宅ニ續キ居
 リ候右竊取シタル藁三束ハ追々草鞋ニ作り氏名知レサル者へ賣拂
 ヒ其代金ハ悉皆飲食料ニ費用致候事
 自分ハ叔父大場寛兵衛ノ地所ヲ借受テ住居致シ居リ候處自分カ諸
 所ヨリ茄子胡瓜等竊盜スルトノ風聞有之右ニ相違ナケレハ巳レカ
 地所ニハ住居爲致カタク趣ニテ右覺兵衛ヨリ異見被致候得共斯ク
 盜マサル事ヲ申聞ケラレ如何ニモ遺恨ト存シ明治十二年八月廿二

廿午前第三時頃覺兵衛方物置小屋東南ノ軒角ニ立置キアル枯葉竹
 ノ中へ破レ木綿切へ炭火ヲ包ミタルヲ挾ミ其場逃走ノ後火燃上リ
 タルヲ覺兵衛隣家今野重右衛門カ見留メ火事觸致シタルヲ以テ衆
 人馳セ集リ消シ止メ燒燬ニ致ラサル趣承リ居候處炭火ヲ包ミタル
 切ト同一ノ切ヲ所持罷在ルヨリ右ノ所爲發覺致シ明治十二年八月
 廿八日捕縛相成候尤右物置小屋ハ間口五間奥行三間ニテ覺兵衛居
 宅ヨリ四間程相離レ居リ候事ハ...
 右ノ始末今般御取糺ヲ蒙リ恐入候事ハ...
 前頭ノ始末山形縣警察本署ニ於テ取調中山形監獄支署ヨリ入檻相成
 居候處明治十二年九月廿五日午前第三時右支署出火ノ際逸出即日
 午前第五時頃投歸致候事...
 右ノ口供ニ依リ明治十三年七月十三日福島裁判所山形支廳ニ於テ左

ノ裁判ヲ申渡シタリ...
 其方儀明治十年七月二日中野彌五兵衛物置小屋ヨリ藁五束ヲ竊取
 シ其所爲ノ發覺セメテ恐レ火ヲ放テ右小屋ヲ燒毀シ及明治十二
 年三月二十七日大場和藏物置小屋ヨリ藁三束ヲ竊取シ其所爲ノ發
 覺セメテ恐レ其居宅ニ接續スル小便所ニ放火シ明治十二年八月
 廿二日大場覺兵衛ニ異見ヲ加ヘラレタルヲ恨ミ其物置小屋ニ放火
 シ共ニ未ダ燒燬ニ至ラサル右科ノ内彌五兵衛ノ物置小屋ヲ燒燬シ
 タルハ雜犯律放火條ニ依リ斬罪ノ處其入檻中監獄支署燒失ノ際逸
 出投歸スルヲ以テ捕亡律獄囚脫監及反獄逃走條ニ依リ本罪ヨリ一
 等ヲ減シ懲役終身尙ホ情狀ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役七年申付ル
 但シ竊取スル藁八束ノ代金八錢六厘ハ追徴ス
 山形縣五等警部矢部潔ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月廿

一日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年八月十八日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右裁判中盜罪及ヒ輕減シタルハ不服ナリト雖モ放火罪ノ中野彌五兵衛方ノ物置小屋ヲ燒タルヲ民舎ト同ク論シ重シト爲シタルハ破毀ヲ求メサルヲ得ス如何トナルニ雜犯律放火條凡火ヲ放テ故ラニ公廨倉庫及ヒ民舎ヲ燒クモノハ皆斬未タ燒燬ニ至ラサルモノハ流三等トアリ又例第二百七十八條凡火ヲ放テ人ノ空間房屋及ヒ田場積聚ノ物ヲ燒ク者ハ懲役七年未タ燒燬ニ至ラサルモノハ懲役三年トアリ夫レ公廨倉庫民舎モ空間房屋モ同ク建造物ニシテ左ノ如ク罪ニ輕重アルモノハ其損害ノ多少ニ由リ定メラレタルモノナラン故ニ空間房屋中偶々一束ノ藁一塊ノ炭ヲ入置キアル際之ヲ燒クモ必ス民舎ヲ以テ論セラレサルヘシ然ルニ律ニ物置小屋ニ放火シタ

ルモノ、明文ナキ處其名稱タル倉庫ニ類似シタルモノナレトモ其實際ニ至リテハ用ヲ異ニスル所アリ一概ニ論スヘカラサルヲ以テ現ニ用ヒタル所ノ實際ヲ以テ區分シ金穀ヲ貯藏シタルモノハ倉庫人ノ住居セシモノハ民舎金穀モ貯藏セス人モ住居セス僅カノ藁或ハ薪ヲ入レタルモノ、如キハ空間房屋ヲ以テ論シ處分セサレハ其當ヲ得タルモノト云フヘカラス果シテ然ラハ該犯ノ放火シタル大場覺兵衛物置小屋ニハ俵入ノ麥或ハ味噌板藁等ヲ入レ置キタルモノニ付倉庫ト同視ススク又中野彌五兵衛ノ物置小屋ニハ他ノ物品ヲ入レス僅カノ藁ノミヲ入レ置キタルモノナレハ空間房屋ヲ以テ論スヘキモノニシテ之ヲ律ニ照セハ彌五兵衛ノ小屋ハ燒クルモ懲役七年覺兵衛ノ小屋ハ燒燬ニ至ラサルモ懲役十年ノ罪ナリトス然カシテ尙ホ大場和藏居宅モ燒燬ニ至ラス懲役十年ノ罪アルヲ以テ名例

律二罪俱發以重論條凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ツ重キ者ヲ以テ論シ各等キハ一ニ從テ科ストアルニ依リ一ノ懲役十年ノ罪ヲ以テ重シト爲シ處分スヘキモノナラン然ルチ今山形支廳ニ於テ前顯ノ如ク宣告シタルハ不當ノ裁判ナリト思考セリ

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

山形縣警部矢部潔ハ福島裁判所山形支廳ニ於テ大場忠次カ火ヲ放ツテ中野彌五兵衛ノ物置小屋ヲ燒燬セシ罪ヲ以テ空間房屋ヲ燒キタル者ヲ以テ論セズ民舎ヲ燒キシ者ニ依リ裁判セシハ不法ナリト止告スト雖モ福島裁判所山形支廳ノ裁判ハ不法ノ裁判ニアラストス如何トナレハ改定律例第二百七十八條ニ空間房屋トアルハ固ヨリ人ノ居住スルコトヲ及物ノ積聚スルナキトコソモノトス然ルニ忠次カ放火セシ中野彌五兵衛ノ物置小屋ノ如キハ然ラズ既ニ物

ノ積聚セルアリ夫レ既ニ物ノ積聚セルアル上ハ其物タルヤ假令貴重ノ物ニアラサリシモ空間房屋ニアラサルハ明瞭ナリトス左スレハ忠次カ所爲ハ空間房屋ヲ燒キシ者ヲ以テ論スルヲ得サレハナリ況ンヤ雜犯律放火條ニ民舎トアルハ必シモ人ノ居住スル家宅ノミニシテ物置小屋ノ如キハ包含セサルト云フノ明文ナキニ於テチヤ故ニ福島裁判所山形支廳カ忠次ニ申渡シタル裁判ハ不法ノ裁判ト謂フヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月十三日福島裁判所山形支廳ニ於テ大場忠次ニ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシトス





